

# 淡江日本論叢

## 第37輯

### 【論文】

- 謝嫣文 日本語教師の専門能力に関する学校類型別分析 1  
佐野誠 一台湾北部の後期中等教育日本語教師を中心に一  
落合由治 村上春樹研究センターの活動による村上春樹研究の浸透と受容の深化 24

### 【研究・実践報告】

- 林玉恵 相互評価・自己評価を取り入れた授業デザイン 49  
一「概論的授業」の学習成果の可視化を目指して一  
蒋千苓 日中翻訳の対照研究 74  
一断捨離の書籍における翻訳問題を中心に一

### 【後記】

- 落合由治 『淡江日本論叢』37号編集後記 97
- 

2018年6月

淡江大學外國語文學院日本語文學系

# 淡江日本論叢

第 37 輯

2018 年 6 月

淡江大學外國語文學院日本語文學系

# 日語教師依學校類型別之專業知能分析

## -以台灣北部後期中等教育的日語教師為主-

謝媽文 佐野誠

開南大學應用日語學系助理教授

### 摘要

本稿之研究目的係探討台灣北部後期中等教育日語教師，依一般高中、職業高中、綜合高中的情況，進行專業知能的分析。研究結果提供爾後規劃、改善日語教師進修制度及師資培育制度之參考。調查結果臚列如下：

1. 一般高中的日語教師對「言語一般」、「言語與教育」、「社會·文化·地域」、「言語使用」的自評得點達顯著差異。特別在「言語與教育」的「言語教育法·實技」部份，自評得點最高。

2. 職業高中與綜合高中的日語教師對「言語一般」、「言語與教育」、「社會·文化·地域」的自評得點達顯著差異。兩者在「言語與教育」的「言語教育法·實技」部份，自評得點均最高。

3. 三群自評得點僅在「日語構造」、「言語教育法·實技」項目達顯著差異；綜合高中日語教師比職業高中日語教師自評得點較高，更具信心。

關鍵詞：日語教師、專業知能、學校類型

# **The Study of the Schools' Types of the Japanese Teachers' Professional Competency: Focus on Japanese teachers at Upper Secondary Education in Northern Taiwan**

Hsieh, Yen Wen Sano, Makoto

Assistant Professor, Kainan University, Taiwan

## **Abstract**

The purpose of this paper is to analyze the Professional Competency of the Japanese teachers who are from general high schools, vocational high schools, comprehensive high schools, focus on Japanese teachers at upper secondary education in northern Taiwan. This study can be significant resource for future in-service training and teacher training system. The findings from this survey are as follows:

1. There were significant differences in general high schools' teachers on the self-esteem at (1) language and average territory, (2) language and education territory, (3) social cultural and regional territory, (4) language use territory. Especially in language and education territory, the part of language education & skills got the highest of self-esteem.

2. There were significant differences in vocational high schools' teachers and comprehensive high schools' teachers on the self-esteem at (1) language and average territory, (2) language and education territory, (3) social cultural and regional territory. They both got the highest score of self-esteem in language and education territory and the part of language education & skills

3. The self-esteem of these 3 groups reached significant differences only in (1) the structure of Japanese, (2) method of language education and practical skills. Comprehensive high school' teachers reached higher scores and were more confident than vocational high schools' teachers.

Keywords: Japanese Teacher, Professional Competency, Schools' Types

# 日本語教師の専門能力に関する学校類型別分析 —台湾北部の後期中等教育日本語教師を中心に—

謝嫣文 佐野誠

開南大学応用日本語学科助理教授

## 要旨

本研究では台湾北部の高校日本語教師を対象として、一般高校、職業高校、総合高校の日本語教師の専門能力の実態を明らかにしようとするものである。その結果は今後の効果的な研修体制構築や教員養成制度の改善に資すると考える。以下のことが明らかになった。

1. 一般高校の日本語教師は「言語一般」、「言語と教育」、「社会・文化・地域」、「言語使用」に関する領域に対し、自己評価の得点に差異があることが見出された。「言語と教育」の「言語教育法・実技」に対し、高得点であった。

2. 職業高校と総合高校の日本語教師は「言語一般」、「言語と教育」、「社会・文化・地域」に関する領域に対し、自己評価の平均得点に差異があることがわかった。両者共「言語教育法・実技」に対し、高得点であった。

3. 三群の自己評価の得点に差異が見られた「日本語の構造」、「言語教育法・実技」であり、いずれも総合高校の日本語教師は職業高校の日本語教師に比べて自信が高いことを明らかにした。

キーワード:日本語教師、専門能力、学校類型

# 日本語教師の専門能力に関する学校類型別分析 —台湾北部の後期中等教育日本語教師を中心に—

謝嫣文 佐野誠

開南大学応用日本語学科助理教授

## 1. はじめに

社会が急激に変化する中、台湾の教育も、少子化、国際化、高齢化、多元化などといった時代の変化に即した対応が求められ、2014学年度より「12年国民基本教育課程綱要総綱」を公布し、12年一貫教育カリキュラムが実施されている。しかしながら、「12年国民基本教育」の実施に伴い、後期中等教育は学校類型が多くて、各学校類型の特徴が相違により、課程設計はもっと大きな挑戦や課題があると思われる。とりわけ、「12年国民基本教育」により教師は生徒の差異、能力・適性に応じ、より実践的・多元的な指導が求められ、教師の専門知識・実務経験・授業能力が問われることになった<sup>1</sup>。

また、近年、少子化に伴い、日本語クラスの学習者数の減少傾向が見られ、したがって中等教育の日本語教育上は「学習者不熱心」という大きな問題も挙げられた<sup>2</sup>。そのような状況におかれていながら、「12年国民基本教育」の実施にあたって、後期中等教育の各学校類型の相違、教育目標を踏まえ、生徒一人一人の特性や課題やニーズに応じ、日本語教師の専門知識、授業能力、指導力において更に多様性、専門化が求められている<sup>3</sup>。しかし、現場の実態は日本語教師不足（日本語母語教師も不足）<sup>4</sup>、スクール・ベースト(school based)による日本語カリキュラム・教材開発の不十分、多元的・学際的課程の編成の欠如、学校類型（普通高校、職業高校、総合高校）の相違により、日本語課程のアーティキュレーション、一貫性の不

---

<sup>1</sup> 教育部(2014)『教育部人才培育白皮書』台北、教育部、22頁。

<sup>2</sup> 国際交流基金(2014)『海外の日本語教育の現状』東京、158頁。

<sup>3</sup> 教育部(2014)『教育部人才培育白皮書』台北、教育部、21-22頁。

<sup>4</sup> 国際交流基金(2014)『海外の日本語教育の現状』東京、33頁と156頁。

充分や重複学習や不本意履修などといった問題を抱えている。

そこで本稿では、一般高校、職業高校、総合高校で活躍している日本語教師の現状を自己評価という視点から実態を調査し、それぞれの専門能力の特徴や差異を明らかにし、将来の効果的な研修体制の構築や研修内容の編成、さらには現状の教員養成制度に対する新たなアイデアを得たい。本研究では、日本語教師の専門能力を高校類型の視点より検討することを目的とする。よって、次の研究仮説を設定した。(1)一般高校、職業高校、総合高校における日本語教師の専門能力（五領域）に対する自己評価の差異があるであろうか。

## 2. 先行研究

日本語教師の専門能力については、これまでにいくつか報告されている。高木・佐藤（2006）は「現職日本語教師に求められる実践能力」を12因子に整理した。台湾人学習者（大学生）が求める日本語教師の特性に関しては、顔（2007）の調査では台湾の大学生が考える「優れた」日本語教師の行動特性調査、王（2012）のマインド・マップ方法調査による台湾人学生が重要視している上位5つの条件は「発音がいい」、「雰囲気盛りあげる人」、「多様な内容」、「学生に対して辛抱強い」、「一方通行でなく、学生との何らかのインターアクションが見られる」という結果が得られた。また、跡部（2012）はインタビューを行い、分析にはTAEを採用し、「豊富な知識の効果的伝達」、「ルールとペースの保持」、「学生の状態把握」、「家族的つながり」という4つのタームを得た。

台湾中等教育における日本語教師像に関して、林（2013）の研究では「高校教師が習得した教授法の時空から実証された専門教育の大切さ」、「構造と意味の理解を重視する傾向」、「進学とJLPTの試験に傾く教育目標」、「日常生活と好みの話題が有効な学習法」、「中上級指導の限界」、「一般的なキャリア能力の大切さ」、「現場と養成機関とのギャップ」、「仕事の満足感と生き甲斐をもちながらの教師養成への懸念」ということが、また黄（2015）の調査結果では「学習

者とのインターアクション」、「専門家としての指導力」、「教職のキャリア」の3因子から構成され、学習者とのインターアクションが重要であることが主張された。

中国人学習者が求める日本語教師の特性に関しては、林・衛(2010)はマインド・マップ方式により、「性格」、「授業」、「教師と学生の関係」、「教師特性」、「知識」、「その他」という重要なタームを得た。また、春口(2011)の研究では、「標準的な日本語」、「幅広い知識」、「楽しい授業」、「経験」、「学習者の専門知識」は上位5位としていることをあげた。

以上のように、これまでの研究報告から、日本語教師の専門能力に関する研究は主に学習者を中心とする調査の特徴が多く見られるが、学校類型別による日本語教師の調査はまだ少なく、本稿はこの不足点を補い、一般高校、職業高校、総合高校で活躍している日本語教師の専門能力の実態に着目し、三者の相違を明らかにしたい。

### 3. 調査の概要

本調査は2010年10月上旬から11月下旬にかけて、無記名式の質問紙を郵送で回答を回収した。調査地域および調査対象はいわゆる台湾北部方面だけを対象とし、すなわち基隆県、基隆市、新北市(旧台北県)、台北市、桃園県、桃園市、苗栗県、苗栗市、新竹県、新竹市で、このうち日本語クラスを有する高等学校の74校を無作為に抽出し調査対象とした。これについては台湾教育部がウェブで公開している「高校における第二外国語設置校、設置クラス及び履修人数の統計」<sup>5</sup>を参考に資料を作成した。送付総部数257部のうち121部が返送されてきたが、質問の項目全てに回答があり、記入漏れの無い有効回収票は102部であった。

回答者の属性は、一般高校が39.2%(40人)、職業高校が47.1%

---

<sup>5</sup> 台湾教育部「98学年度歴年普通高級中学開設第二外語課程学校、班級及人数統計表」(2009年9月10日取得)

[http://www.2ndflcenter.tw/class\\_detail.asp?classid=1](http://www.2ndflcenter.tw/class_detail.asp?classid=1)

(48人)、総合高校が13.7%(14人)を占めた。専攻分野別は、一般高校が「日本語(文)学、日本語教育」の者は32人で全体の80%、「人文科学」の者は2人で全体の5%、「社会科学」の者は3人で全体の7.5%、「芸術」の者は1人で全体の2.5%、「その他」の者は2人で全体の5%を占めた。そして、職業高校が「日本語(文)学、日本語教育」の者は42人で全体の87.5%、「人文科学」の者は2人で全体の4.2%、「社会科学」の者は3人で全体の6.3%、「その他」の者は1人で全体の2.1%を占めた。それから、総合高校が「日本語(文)学、日本語教育」の者は9人で全体の64.3%、「社会科学」の者は4人で全体の28.6%、「その他」の者は1人で全体の7.1%を占めた。いずれでも、このことから一般高校、職業高校、総合高校の日本語教師はほとんど「日本語(文)学、日本語教育」の専攻者が多いであることがわかる。

本研究の調査票の内容および回答方法について、質問項目は2000年3月に文部科学省「日本語教育のための教員養成について」<sup>6</sup>で示された新たな教育内容<sup>7</sup>と2001年3月の「日本語教育能力検定試験出題範囲」<sup>8</sup>、佐藤・松崎・縫部(2004)の使った5区分(「社会・文化・地域」、「言語と社会」、「言語と心理」、「言語と教育」、「言語」)と下位区分の構成を基にし、「新教育内容」の五区分および「キーワード」、内容を参考に作成した。文部科学省「日本語教育のための教員養成について」の報告で示された新たな教育内容は、コミュニケーションを中心とする「社会・文化・地域」、「言語と社会」、「言語と心理」、「言語と教育」、「言語」の五つの区分を設け、日本語教員の資質向上とその養成に関し一層の改善を図るための日本語教員養成の内容

---

<sup>6</sup> 日本文科省「日本語教育のための教員養成について」(2009年6月3日取得)  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/nc/t20000330001/t20000330001.html](http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/t20000330001/t20000330001.html)

<sup>7</sup> 「社会・文化・地域」、「言語と社会」、「言語と心理」、「言語と教育」、「言語」の五区分を指す。

<sup>8</sup> 日本文科省「日本語教育のための試験の改善について」(2009年6月3日取得)  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/nc/t20010330005/t20010330005.html](http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/t20010330005/t20010330005.html)

の見直しを行った。一方、台湾の日本語教員養成において、日本語教育に関する基本的に必要とされる専門知識、技能、内容を育成するのはもちろん、高校「第二外国語」課程綱要の課程目標に当たって、第二外国語で日常生活に関して意志疎通ができるコミュニケーションの能力を養うとされている<sup>9</sup>。台湾でもコミュニケーション能力を核とする日本語教員養成の重要性が認知されてきて、日本語教員の専門的能力として関連諸分野との学際的な知識を有することが大切だと指摘されている。このように、日本、台湾では日本語教員に望まれる資質・能力に関する関連性があると思われる。作成した調査票は日本語教育に関わる分野の研究者2人、高校の教務主任1人、高校日本語教師1人による項目の検討を行った。高校日本語教師を2名を対象に予備調査を行い、回答内容を検討し、台湾の日本語教員養成の実態や日本語教育の状況に基づいて、質問項目を精選し、計45項目が作成された。

質問項目は全45項目を主因子法によるバリマックス回転の因子分析を行い、固有値が1.0以上の5因子を抽出し、累積寄与率は67.81%で、因子の負荷量が0.50以上の項目内容を参考とし各因子の解釈、命名を行った。第1因子には言語習得・発達、言語理解の過程、異文化理解と心理に関する12項目から構成されており、「言語と心理に関する領域」と称した。第2因子には日本語の構造、言語の構造一般の10項目から構成されており、「言語一般に関する領域」と称した。第3因子には言語教育法・実技や言語教育と情報に関する10項目で構成されている。そこで「言語と教育に関する領域」と称した。第4因子には日本語教育の歴史と現状、異文化接触、異文化教育・コミュニケーション教育、世界と日本に関する8項目で構成されている。そこで、「社会・文化・地域に関する領域」と称した。第5因子には言語使用と社会、言語予測とコミュニケーションに関する5項目で構

---

<sup>9</sup> 「普通高級中学選修科目「第二外国語」課程綱要」2008年1月24日台中(一)字第0970011604B号。

成されている。そこで「言語使用に関する領域」と名づけた。第4節の調査結果に関し、因子分析で抽出された五領域のさらに下位区分13区分の平均値及び標準偏差を分析し、日本語教師の専門能力の現状を論じた。

各因子の信頼性係数を算出したところ、尺度全体のクロンバックの $\alpha$ 係数は0.973であった。下位尺度においては、「言語と心理に関する領域」が0.953、「言語一般に関する領域」が0.936、「言語と教育に関する領域」が0.928、「社会・文化・地域に関する領域」が0.904、「言語使用に関する領域」が0.893という数値が得られた。それに、標準化された項目に基づいたクロンバックの $\alpha$ 係数について、尺度全体が0.974で、下位尺度においては、0.894～0.953であり、各尺度は内的整合性、一貫性の観点から高い信頼性をもつことが示された。

以上の各項目に対して、各学校類型の日本語教師がどれだけ自信があるかについて、「5 とても詳しい」、「4 比較的知っている」、「3 基礎知識程度」、「2 あまり知らない/あまりできない」、「1 全く知らない/全くできない」の5段階尺度で回答を求めた。この回答データをSPSSおよびExcelを使用し、一般高校、職業高校、総合高校の日本語教師の標本サイズが小さいとデータの分布に依存しないとしてノンパラメトリック検定であるフリードマン(Friedman)検定、ウィルコクソン(Wilcoxon)の符号付順位和検定、クラスカル・ワリス検定(Kruskal-Wallis)を行って解析した。

#### 4. 調査結果の分析

本節では、一般高校、職業高校、総合高校の日本語教師からみた専門能力（五領域）の下位尺度に対する自己評価の平均得点の差異について説明し、次に三者の間の自己評価の差の検証を行うことにした。調査票の項目に関し、7ページをご参考にして頂きたい。

##### 4.1 一般高校の日本語教師の専門能力（五領域）に対する自己評価の差異

一般高校の日本語教師は専門領域（五領域）の下位尺度の平均得

点に対し、フリードマン検定<sup>10</sup>、ウィルコクソンの符号付順位和検定<sup>11</sup>で差異が生じるかどうかを調べた。その結果は以下である。

#### 4.1.1 「言語と心理に関する領域」の得点による差異の分析

「言語と心理に関する領域」の下位尺度に対し、フリードマン検定を行った。その結果は  $\chi^2=0.67, p>.05$  で、「言語習得・発達」(M=3.15)、「異文化理解と心理」(M=3.11)、「言語理解の過程」(M=3.01)の間には、有意差がみられなかった。

#### 4.1.2 「言語一般に関する領域」の得点による差異の分析

「言語一般に関する領域」の下位尺度に対し、ウィルコクソンの符号付順位和検定を行った。その結果は  $Z=-2.86, p<.05$  で、「日本語の構造」(M=3.56)と「言語の構造一般」(M=3.24)の間には、有意差がみられた(表1)。

表1 一般高校にみた「II言語一般に関する領域」のウィルコクソン検定の結果

II言語一般に関する領域	平均値	標準偏差	Z検定	有意確率
1日本語の構造	3.56	.78	-2.86	0.00
2言語の構造一般	3.24	.89		

一般高校の日本語教師が「日本語の構造」の得点は「言語の構造一般」より有意に高い得点を示した。本稿の調査では、一般高校の日本語教師の特徴は「日本語(文)学、日本語教育」の専攻者(80%)が多いであり、修士号の取得者は全体の55%を占めた。一般高校の日本語教師は大学の履修規定に従い、「日本語(文)学、日本語教育」に関する専門知識を勉強し、さらに深い学問を追究するために、「日本語(文)学、日本語教育」の修士コースに入り、「日本語の構造」(M=3.56)は「言語の構造一般」(M=3.24)より自信の程度が高い傾向があると思われる。

<sup>10</sup> フリードマン検定は、繰り返しのない2元配置分散分析と1要因の反復測定による分散分析に対応したノンパラメトリックな手法である。

<sup>11</sup> ウィルコクソンの符号付順位和検定はノンパラメトリック検定のひとつで対応のある2群の差の検定に用いる。

#### 4.1.3 「言語と教育に関する領域」の得点による差異の分析

「言語と教育一般に関する領域」の下位尺度に対し、ウィルコクソンの符号付順位和検定を行った。その結果は  $Z=-4.97$ ,  $p<.05$  で、「言語教育法・実技」( $M=3.67$ )と「言語教育と情報」( $M=2.78$ )の間には、有意差が認められた(表 2)。一般高校の日本語教師の日本語経験年数別をみると、「中堅教員」(「5年以上10年未満」)と「ベテラン教員」(「10年以上20年未満」)を合わせて5割強であった。教職経験年数につれて、授業技術を習得し、ゆえに、「言語教育法・実技」の得点は「言語教育と情報」より有意に高い得点を示した。

表2 一般高校にみた「III言語と教育に関する領域」のウィルコクソン検定の結果

III言語と教育に関する領域	平均値	標準偏差	Z値	有意確率
1言語教育法・実技	3.67	.74	-4.97	0.00
2言語教育と情報	2.78	1.13		

一方、教育工学、情報技術活用能力に関わる「言語教育と情報」の得点は「あまり知らない/あまりできない」といった結果を示した。

「12年国民基本教育」の推進にあたって、「科学技術」は教育部の必修科目として規定されており<sup>12</sup>、教師に授業内容を反転授業(flipped classroom)やムークス(MOOCs)を図ろうとし、またIoT(Internet of Things)やAR(Augmented Reality)/VR(Virtual Reality)を使って、生徒に科目の実用性と重要性を認識させる動きが始まっている<sup>13</sup>。メディア・リテラシーの研修内容の必要性が高まってきている。

#### 4.1.4 「社会・文化・地域に関する領域」の得点による差異の分析

「社会・文化・地域に関する領域」の下位尺度に対し、フリードマン検定を行った。その結果は  $\chi^2=19.49$ ,  $p<.001$  で(表 3)、「日本

<sup>12</sup>前掲「十二年国民基本教育課程綱要 総綱」、15頁。

<sup>13</sup>教育部(2017)『強化数位教学暨学习资讯应用环境计划(核定本)』台北、教育部、4-7頁。

語教育の歴史と現状」(M=2.88)、「異文化接触」(M=3.00)、「異文化教育・コミュニケーション教育」(M=3.02)と「世界と日本」(M=3.41)の間には、有意差が見られた。多重比較の結果、「世界と日本」(M=3.31)は「日本語教育の歴史と現状」(M=2.88)、「異文化接触」(M=3.00)、「異文化教育・コミュニケーション教育」(M=3.02)より自己評価が高いことがわかった。

表3 一般高校にみた「IV社会・文化・地域に関する領域」の分散分析表

IV社会・文化・地域に関する領域のソース	平均値	標準偏差	平均ランク	自由度	$\chi^2$	多重比較
1日本語教育の歴史と現状	2.88	0.92	2.13	3	19.49***	4>1&2&3
2異文化接触	3.00	0.85	2.30			
3異文化教育・コミュニケーション教育	3.02	0.97	2.41			
4世界と日本	3.41	0.64	3.16			

注)多重比較のI<sup>4</sup>は、それぞれIV社会・文化・地域に関する領域のソースの項目を示す。\*\*\*P<.001, \*\*P<.01, \*P<.05

一般高校の日本語教師の日本留学経験別をみると、経験のある者が6割であった。彼らが留学中に、日本人、他国の留学生と知り合いながら、諸外国・地域と日本といった文化、異文化やコミュニケーションの知識の獲得を通じ、「世界と日本」に対する自己評価の得点が高く、自信があるが、「基礎知識程度」の結果に止まった。そして、「異文化接触」、「異文化教育・コミュニケーション教育」に対し、いずれも「基礎知識程度」であった。「12年国民基本教育」の第二外国語の課程目標において、コミュニケーションできる能力の育成をねらいとして掲げている。異文化コミュニケーションや異文化理解や異文化リテラシーに関する研修内容が必要とされる。

#### 4.1.5 「言語使用に関する領域」の得点による差異の分析

「言語使用に関する領域」の下位尺度に対し、ウィルコクソンの符号付順位和検定を行った。その結果は  $Z=-2.41$ ,  $p<.05$  で、「言語使用と社会」(M=3.45)と「言語予測とコミュニケーション」(M=3.23)の間には、有意差がみられた(表4)。つまり、待遇・敬意表現、言語・非言語行動にみられる「言語使用と社会」は予測・推測能力やコミュニケーション・ストラテジーに関わる「言語予測とコミュニケーション」より、一般高校の日本語教師は有意に高い得点を示し

た。

一般高校の日本語教師の6割が日本留学経験があった。現地での留学経験を通じて、日本語会話のルール、表情、ポライトネス、敬語などの練習を重ねることで暗示的知識に転化したので、「言語使用と社会」に対する自己評価の得点が高く、自信があるが、「基礎知識程度」の結果に止まった。各場面・状況に応じる日本語会話の発話行為の専門研修プログラムの企画も不可欠であると考えられる。

表4 一般高校にみた「V言語使用に関する領域」のウィルコクソン検定の結果

V言語使用に関する領域	平均値	標準偏差	Z値	有意確率
1言語使用と社会	3.45	.72	-2.41	0.02
2言語予測とコミュニケーション	3.23	.78		

#### 4.2 職業高校の日本語教師の専門能力（五領域）に対する自己評価の差異

職業高校の日本語教師は専門能力（五領域）の下位尺度の平均得点に対し、フリードマン検定、ウィルコクソンの符号付順位和検定で差異が生じるかどうかを調べた。結果は以下である。

##### 4.2.1 「言語と心理に関する領域」の得点による差異の分析

「言語と心理に関する領域」の下位尺度に対し、フリードマン検定を行った。その結果は  $\chi^2=0.18, p>.05$  で、「言語習得・発達」(M=3.14)、「異文化理解と心理」(M=3.15)、「言語理解の過程」(M=3.08)の間には、有意差がみられなかった。

##### 4.2.2 「言語一般に関する領域」の得点による差異の分析

「言語一般に関する領域」の下位尺度に対し、ウィルコクソンの符号付順位和検定を行った。その結果は  $Z=-4.05, p<.05$  で、「日本語の構造」(M=3.23)と「言語の構造一般」(M=2.84)の間には、有意差がみられた(表5)。職業高校の日本語教師が「日本語の構造」の得点は「言語の構造一般」より有意に高い得点を示した。

表5 職業高校にみた「II言語一般に関する領域」のウィルコクソン検定の結果

II言語一般に関する領域	平均値	標準偏差	Z検定	有意確率
1日本語の構造	3.23	.64	-4.05	0.00
2言語の構造一般	2.84	.96		

本稿の調査では、職業高校の日本語教師の専攻分野別で最も多いのは「日本語（文）学、日本語教育」分野であった。また、職業高校の日本語教師は7割超え、中等教育日本語教員免許を所有した上、日本語教員採用試験に合格したものである。近年、「12年国民基本教育」の推進に従い、日本語力、商業実務、実習、專題実作が求められている今、日本語教師の日本語力はハイレベルを要求されていると言えよう。このような教職高倍率の難関を突破して採用されてきた職業高校の日本語教師は、「日本語の構造」に対し、自己評価の得点が高く、自信があるが、「基礎知識程度」の結果に止まった。職業高校の日本語教師の6割が日本留学経験がなかった。日本留学経験がない台湾人日本語教師のための日本語研修プログラム、短期留学或いは協働授業づくりの必要性が生じると思われる。

#### 4.2.3 「言語と教育に関する領域」の得点による差異の分析

「言語と教育に関する領域」の下位尺度に対し、ウィルコクソンの符号付順位和検定を行った。その結果は $Z=-4.22$ ,  $p<.01$ で、「言語教育法・実技」(M=3.43)と「言語教育と情報」(M=2.91)の間に有意差が見られた。「言語教育法・実技」(M=3.43)は「言語教育と情報」(M=2.91)に比べて、自己評価の得点が高いことが明らかになった(表6)。「12年国民基本教育」の推進にあたり、職業高校は「実務致用」という理念で実務と理論を重んじており、旧来日本語の四技能の科目のほかに、日本語文書処理実務、日本語商用ビジネス実務という科目も配置されている。四技能だけを重視する教育法・実技は恐らく対応しきれないと思われる。特に多くの職業高校は実習や專題制作の履修も規定されており、生徒のニーズやレベルに合わせ、授業方法、実技を調整・検討したりすることが示される。

表6 職業高校にみた「III言語と教育に関する領域」のウィルコクソン検定の結果

III言語と教育に関する領域	平均値	標準偏差	Z値	有意確率
1言語教育法・実技	3.43	.62	-4.22	0.00
2言語教育と情報	2.91	.81		

一方、教育工学、情報技術活用能力に関わる「言語教育と情報」の得点は「あまり知らない/あまりできない」といった自己評価の結果を示した。「12年国民基本教育」における職業高校の核心能力に関して、電子文書処理の基礎能力や事務所の事務機器の操作能力の育成が掲げられているし、情報通信技術（ICT）を教育面で活用するようとしている。職業高校の日本語教師にとって、メディア・リテラシーに関する研修内容が必要とされている。

#### 4.2.4 「社会・文化・地域に関する領域」の得点による差異の分析

「社会・文化・地域に関する領域」の下位尺度に対し、フリードマン検定を行った。その結果は  $\chi^2=24.41$ ,  $p<.001$  で(表7)、「日本語教育の歴史と現状」(M=2.72)、「異文化接触」(M=2.93)、「異文化教育・コミュニケーション教育」(M=2.99)と「世界と日本」(M=3.20)の間には、有意差が見られた。多重比較の結果、「世界と日本」(M=3.20)は「日本語教育の歴史と現状」(M=2.72)、「異文化接触」(M=2.93)、「異文化教育・コミュニケーション教育」(M=2.99)より自己評価が高い結果が見出された。なお、「異文化接触」(M=2.93)、「異文化教育・コミュニケーション教育」(M=2.99)は「日本語教育の歴史と現状」(M=2.72)より自己評価が高いことも見られた。

表7 職業高校にみた「IV社会・文化・地域に関する領域」の分散分析表

IV社会・文化・地域に関する領域のソース	平均値	標準偏差	平均ランク	自由度	$\chi^2$	多重比較
1日本語教育の歴史と現状	2.72	0.89	2.00	3	24.41***	4>1&2&3
2異文化接触	2.93	0.65	2.35			2&3>1
3異文化教育・コミュニケーション教育	2.99	0.68	2.60			
4世界と日本	3.20	0.67	3.04			

注)多重比較の1~4は、それぞれIV社会・文化・地域に関する領域のソースの項目を示す。  
\*\*\* $p<.001$ , \*\* $p<.01$ , \* $p<.05$

職業高校の日本語教師の6割が日本留学経験がなかったが、日本への渡航・旅行に基づいて、日本人・日本社会及び世界における日本

の立場への理解が深まるにつれ、「世界と日本」に自己評価の得点が高く、自信があるが、「基礎知識程度」の結果に止まった。そして、「異文化接触」、「異文化教育・コミュニケーション教育」、「日本語教育の歴史と現状」に対し、得点は「あまり知らない/あまりできない」といった自己評価の結果を示した。異文化教育、コミュニケーション教育の研修内容が必要であろう。

#### 4.2.5 「言語使用に関する領域」の得点による差異の分析

「言語使用に関する領域」の下位尺度に対し、ウィルコクソンの符号付順位和検定を行った。その結果は  $Z=-0.28, p>.05$  で、「言語使用と社会」( $M=3.32$ )と「言語予測とコミュニケーション」( $M=3.28$ )の間に有意差が見られなかった。

#### 4.3 総合高校の日本語教師の専門能力（五領域）に対する自己評価の差異

総合高校の日本語教師は専門能力（五領域）の下位尺度の平均得点に対し、フリードマン検定、ウィルコクソンの符号付順位和検定で差異が生じるかどうかを調べた。結果は以下である。

##### 4.3.1 「言語と心理に関する領域」の得点による差異の分析

「言語と心理に関する領域」の下位尺度に対し、フリードマン検定を行った。その結果は  $\chi^2=0.04, p>.05$  で、「言語習得・発達」( $M=3.53$ )、「異文化理解と心理」( $M=3.59$ )、「言語理解の過程」( $M=3.57$ )の間には、有意差がみられなかった。

##### 4.3.2 「言語一般に関する領域」の得点による差異の分析

「言語一般に関する領域」の下位尺度に対し、ウィルコクソンの符号付順位和検定を行った。その結果は  $Z=-2.55, p<.05$  で、「日本語の構造」( $M=3.68$ )と「言語の構造一般」( $M=3.04$ )の間には、有意差が見られた（表 8）。総合高校の日本語教師が「日本語の構造」の得点は「言語の構造一般」より有意に高い得点を示した。

表8 総合高校にみた「II言語一般に関する領域」のウィルコクソン検定の結果

II言語一般に関する領域	平均値	標準偏差	Z検定	有意確率
1日本語の構造	3.68	.42	-2.55	0.01
2言語の構造一般	3.04	.69		

本調査では、総合高校の日本語教師の専攻分野別で最も多いのは「日本語（文）学、日本語教育」分野であった。また、総合高校の日本語教師は8割超え、中等教育日本語教員免許を所有した。総合高校は学術プログラムと専門プログラム併置という特性を生かし、生徒一人ひとりの個性や能力を最大限に伸ばし、生徒は二年生になったら、学術プログラムか専門プログラムを選択し、勉強するという特徴がある。また、専門プログラムの設置に関して、職場の経験とライセンス、検定が重視されている<sup>14</sup>。このような背景とニーズの下、総合高校の日本語教師は「日本語の構造」に対し、自信があると思われる。

#### 4.3.3 「言語と教育に関する領域」の得点による差異の分析

「言語と教育に関する領域」の下位尺度に対し、ウィルコクソンの符号付順位和検定を行った。その結果は $Z=-2.95$ ,  $p<.01$ で、「言語教育法・実技」(M=3.88)と「言語教育と情報」(M=3.11)の間に有意差が見られた。「言語教育法・実技」(M=3.88)は「言語教育と情報」(M=3.11)に比べて、総合高校の日本語教師における自己評価の得点が高いことが明らかになった(表9)。

総合高校は一般高校、職業高校より選択科目が多くて(55.5%～72.7%を占める)、スクール・ベースト(school based)に基づく課程が重視されているため、日本語教育の実技、教材開発・分析、コースデザインなどの能力に自信があると考えられる。

<sup>14</sup>前掲「十二年国民基本教育課程綱要 総綱」、24-25頁。

表9 総合高校にみた「III言語と教育に関する領域」のウィルコクソン検定の結果

III言語と教育に関する領域	平均値	標準偏差	Z値	有意確率
1言語教育法・実技	3.88	.48	-2.95	0.00
2言語教育と情報	3.11	.49		

#### 4.3.4 「社会・文化・地域に関する領域」の得点による差異の分析

「社会・文化・地域に関する領域」の下位尺度に対し、フリードマン検定を行った。その結果は  $\chi^2=20.36$ ,  $p<.001$  で(表10)、「日本語教育の歴史と現状」(M=2.75)、「異文化接触」(M=3.25)、「異文化教育・コミュニケーション教育」(M=3.57)と「世界と日本」(M=3.64)の間には、有意差が見られた。多重比較の結果、「異文化接触」(M=3.25)、「異文化教育・コミュニケーション教育」(M=3.57)、「世界と日本」(M=3.64)は「日本語教育の歴史と現状」(M=2.75)より自己評価が高い結果が見出された。なお、「世界と日本」(M=3.64)は「異文化接触」(M=3.25)より自己評価が高いことも見られた。

6 割近い総合高校の日本語教師が日本留学経験があった。日本留学経験から日本人・日本社会及び世界における日本の立場への理解が深まり、「世界と日本」に自己評価の得点が高く、自信があるが、「基礎知識程度」の結果に止まった。

表10 総合高校にみた「IV社会・文化・地域に関する領域」の分散分析表

IV社会・文化・地域に関する領域のソース	平均値	標準偏差	平均ランク	自由度	$\chi^2$	多重比較
1日本語教育の歴史と現状	2.75	0.61	1.39	3	20.36***	2&3&4>1
2異文化接触	3.25	0.67	2.36			4>2
3異文化教育・コミュニケーション教育	3.57	0.76	3.04			
4世界と日本	3.64	0.36	3.21			

注)多重比較の1~4は、それぞれIV社会・文化・地域に関する領域のソースの項目を示す。\*\*\* $P<.001$ , \*\* $P<.01$ , \* $P<.05$

#### 4.3.5 「言語使用に関する領域」の得点による差異の分析

「言語使用に関する領域」の下位尺度に対し、ウィルコクソンの符号付順位和検定を行った。その結果は  $Z=-1.18$ ,  $p>.05$  で、「言語使用と社会」(M=3.83)と「言語予測とコミュニケーション」(M=3.68)の間に有意差が見られなかった。

#### 4.4 学校類型別（三群間）からみた日本語教師の自己評価における平均得点の差異

本節は専門能力（五領域）に対し、一般高校、職業高校、総合高校からみた日本語教師の自己評価の差異の有無について、クラスカル・ワリス検定(Kruskal-Wallis)で差異が生じるかどうかを検証した。

##### 4.4.1 三群の「言語と心理に関する領域」の自己評価差異

「言語と心理に関する領域」に関して一般高校、職業高校、総合高校の日本語教師の間は有意差が見られなかった。「言語習得・発達」、「異文化理解と心理」、「言語理解の過程」において、それぞれ、 $\chi^2=4.00$ ,  $p>0.05$ ;  $\chi^2=5.34$ ,  $p>0.05$ ;  $\chi^2=6.10$ ,  $p>0.05$  であった。

##### 4.4.2 三群の「言語一般に関する領域」の自己評価差異

「言語一般に関する領域」に関して、「言語の構造一般」について、三群の間は有意差が見られなかったが( $\chi^2=4.45$ ,  $p>0.05$ )、「日本語の構造」について、三群は相違が見られた( $\chi^2=6.77$ ,  $p<0.05$ )。多重比較の結果、総合高校の日本語教師は職業高校の日本語教師に比べて自信が高かった(表 11)。

表11 三群にみた「II言語一般に関する領域」のクラスカル・ワリス検定の結果

II言語一般に関する領域	類型	平均値	標準偏差	平均ランク	自由度	$\chi^2$	多重比較
日本語の構造	一般高校	3.57	0.78	56.84	2	6.77*	総合>職業
	職業高校	3.23	0.64	43.71			
	総合高校	3.68	0.42	62.96			

\*\*\* $P<.001$ , \*\* $P<.01$ , \* $P<.05$

##### 4.4.3 三群の「言語と教育に関する領域」の自己評価差異

「言語と教育に関する領域」に関して、「言語教育と情報」について、三群の間は有意差が見られなかったが( $\chi^2=1.68$ ,  $p>0.05$ )、「言語教育法・実技」について、三群は相違が見られた( $\chi^2=7.58$ ,  $p<0.05$ )。多重比較の結果、総合高校の日本語教師は職業高校の日本語教師に比べて自信が高かった(表 12)。

表12 三群にみた「III言語と教育に関する領域」のクラスカル・ワリス検定の結果

III言語と教育に関する領域	類型	平均値	標準偏差	平均ランク	自由度	$\chi^2$	多重比較
言語教育法・実技	一般高校	3.66	0.74	54.78	2	7.58*	総合>職業
	職業高校	3.43	0.62	44.14			
	総合高校	3.88	0.48	67.39			

\*\*\*P<.001, \*\*P<.01, \*P<.05

#### 4.4.4 三群の「社会・文化・地域に関する領域」の自己評価差異

「社会・文化・地域に関する領域」に関し、「日本語教育の歴史と現状」( $\chi^2=0.34$ ,  $p>0.05$ )、「異文化接触」( $\chi^2=2.55$ ,  $p>0.05$ )、「異文化教育・コミュニケーション教育」( $\chi^2=6.10$ ,  $p>0.05$ )、「世界と日本」( $\chi^2=5.77$ ,  $p>0.05$ )」について、三群の間に有意差が見られなかった。

#### 4.4.5 三群の「言語使用に関する領域」の自己評価差異

「言語使用に関する領域」に関して、「言語使用と社会」( $\chi^2=4.85$ ,  $p>0.05$ )、「言語予測とコミュニケーション」( $\chi^2=4.15$ ,  $p>0.05$ )」について、三者の間は有意差が見られなかった。

上述の結果からは、五領域に対し、三群にみた日本語教師の自己評価における平均得点について有意差が見られたのは「日本語の構造」、「言語教育法・実技」であり、いずれも総合高校の日本語教師は職業高校の日本語教師に比べて自信が高いことを明らかにした。近年、総合高校への就学率が更に減少しつつあり<sup>15</sup>、総合高校の専門プログラムを選択した二年生の生徒の能力・適性に応じ、総合高校の日本語教師は職業高校の三年間履修する日本語専門課程のレベルと同じように、二年間以内短縮させたり、專題実作やライセンス取得を指導したりする能力、使命感と関連があると考えられる。

<sup>15</sup> 聯合新聞網「学生数は10万腰斬剩5万 総合高中廢？存？」(2018年2月3日取得) <https://udn.com/news/story/6898/2720453>

## 5. おわりに

本研究では、まず一般高校、職業高校、総合高校の日本語教師からみた五領域の下位尺度に対する自己評価の平均得点の差異について分析し、次に三群間における日本語教師の自己評価の差の検証を行うことにした。以下のことが明らかになった。

一般高校の日本語教師は「言語一般に関する領域」、「言語と教育に関する領域」、「社会・文化・地域に関する領域」、「言語使用に関する領域」に対し、自己評価の平均得点に差異があることが見出された。ところが、五領域の下位尺度に対する自己評価の平均値の全体的傾向について、「言語教育と情報」、「日本語教育の歴史と現状」、は「あまり知らない/あまりできない」という結果であった。

職業高校の日本語教師は「言語一般に関する領域」、「言語と教育に関する領域」、「社会・文化・地域に関する領域」に対し、自己評価の平均得点に差異があることがわかった。ところが、五領域の下位尺度に対する自己評価の平均値の全体的傾向について、「言語の構造一般」、「言語教育と情報」、「日本語教育の歴史と現状」、「異文化接触」、「異文化教育・コミュニケーション教育」は「あまり知らない/あまりできない」という結果であった。

総合高校の日本語教師は「言語一般に関する領域」、「言語と教育に関する領域」、「社会・文化・地域に関する領域」に対し、自己評価の平均得点に差異があることがわかった。ところが、五領域の下位尺度に対する自己評価の平均値の全体的傾向について、「日本語教育の歴史と現状」は「あまり知らない/あまりできない」という結果であった。五領域に対し、三群にみた日本語教師の自己評価における平均得点について有意差が見られたのは「日本語の構造」、「言語教育法・実技」であり、いずれも総合高校の日本語教師は職業高校の日本語教師に比べて自信が高いことを明らかにした。

以上の研究結果から、一般高校、職業高校、総合高校の日本語教師の専門能力の状況並びに三群間における日本語教師の自己評価の特徴を明らかにしたことにより、今後日本語教員養成制度の検討、

認知的・情意的・行動的である研修プログラムの設計、開発並びにネイティブ教師との多元的な協働モデルの構築を検討する上で、重要な意味を有していると言えよう。今後は三類型の高校の学習者、環境、入試成績、進路などといった意識を検討していく必要性が示唆される。引き続き調査研究を明らかにしていきたい。

## 参考文献

### 日本語（五十音順）

- 跡部千絵美（2012）「台湾人学生が求める理想の日本語教師像—TAEを用いたインタビュー分析—」『台湾日語教育学報』18、86-113頁。
- 王敏東（2012）「台湾の非日本語学科の大学生が望む日本語教師の姿—日本の調査との比較を兼ねて—」『台湾日語教育学報』19、198-223頁。
- 顔幸月（2007）「台湾の大学生が考える「優れた」日本語教師の行動特性に関する調査」『東呉日語教育学報』30、1-25頁。
- 黄国維（2015）「台湾人学習者に求められる理想の日本語教師像についての一考察—ある職業高校の日本語学習者を対象に—」『東呉日語教育学報』44、101-124頁。
- 佐藤礼子・松崎寛・縫部義憲（2004）「新日本語教員養成カリキュラムへの各大学の対応度に関する調査(1)—評価結果の分析を中心に—」『国際化情報社会における日本語教師養成システムの開発研究』広島大学大学院教育学研究科、87-108頁。
- 高木裕子・佐藤綾（2006）「日本語教師に求められる実践能力を規定する要因—「全体」「日本国内」「海外」間での比較—」『実践女子大学人間社会学部紀要』2、41-60頁。
- 春口淳一（2011）「中国で求められる日本人日本語教師像—副専攻としての日本語教員養成講座の今後の課題—」『長崎外大論叢』15、69-82頁。
- 林伸一・衛蕾（2010）「中国人学習者が求める日本語教師像—マイン

ド・マップ調査に基づく考察一」『山口大学文学会志』60、39-59  
頁。

林長河（2013）「台湾中等教育における日本語教師の教授能力—高  
校教師のインタビューを通して—」『台湾日語教育学報』20、  
180-207 頁。

### 中国語

教育部(2012)『中華民国師資培育白皮書—發揚師道、百年樹人』台  
北、教育部

教育部(2013)『中華民国教育年報』台北、教育部

教育部(2014)『教育部人才培育白皮書』台北、教育部

吳明隆・涂金堂(2006)『SPSS 與統計應用分析』(二版) 台北:五南



※2018年4月30日受領 2018年6月30日審査通過

※本論文の寄与率は、謝嫣文(1、3、4、5節)80%、佐野誠(2節)  
20%で分担している。

# 通過淡江大學村上春樹研究中心活動,村上春樹研究的 滲透和接受的深化

落合由治

淡江大學日文系教授

## 摘要

淡江大學日本語文學系曾秋桂教授，將村上春樹設為研究生課程的主題，在該部門內設立了村上春樹研究室，並於 2012 年開始了村上春樹的研究和研討會。結果卓有成效，文學，日語，日語教育，媒體研究，心理學，社會學，歷史，翻譯等多學科研究人員開始在台灣研究村上春樹作品。因此，2014 年 8 月，村上春樹研究中心獲得了台灣教育部的批准。同時，該中心舉辦國際研討會，又、在淡江大學開設普通教育課程及 MOOCs 課程，開展研究教育活動，加深對村上春樹作品認識。

作為一種可以超越世界的語言文化和語言表達工作，村上春樹在 21 世紀展現了一個超越不同文化牆壁和自我文化認同的加深了混亂中的現代世界。他的作品的一些秘密肯定是克服當今人類各種摩擦和困難的關鍵。如果世界上第一個村上春樹研究中心成為世界上每個國家的始源村上春樹研究的導火索，那將是光榮的。我想在本文中考慮村上春樹研究中心活動的國際意義。

關鍵字： 台灣，淡江大學村上春樹研究中心，接受，活動，導火索

**Osmosis and enhancement of acceptance on the Haruki Murakami researches by the activities of CMSTKU; the Center for Murakami Haruki Studies in Tamkang University**

Ochiai Yuji

Professor, Tamkang University, Taiwan

**Abstract**

Pr. Tseng Chiu Kuei belonging to Japanese language department in Tamkang University set up Haruki Murakami works as a lesson subject of a graduate school, prepared the Haruki Murakami laboratory in the subject of study, and began the Haruki Murakami research and symposium from 2012. The result fruits and the researcher of many domains, such as literature, Japanese study, Japanese-language-education study, media research, psychology, sociology, history, and translation, came to begin research in Taiwan. As a result, in August 2014, CMSTKU; the Center for Murakami Haruki Studies in Tamkang University was approved by the Ministry of Education in Taiwan. This center holds international symposium, simultaneously, establishes a general education lesson and MOOCs of Tamkang University, and is performing activity which deepens the cognition on Haruki Murakami works.

As a linguistic culture and language expression work that can transcend the world, Haruki Murakami presents a world beyond obsession with the walls of different cultures and self-cultural identity in the 21st century deepening the confusion. Some secrets of his works will surely be a key which overcomes present-day human beings' various frictions and difficulties. If the world's first Haruki Murakami research center becomes a fuse of the respectively original Haruki Murakami research in every country in the world, it is honorable. I would like to consider the international meaning about the activity of the Haruki Murakami research center in this paper.

**Keywords:** Taiwan, CMSTKU; the Center for Murakami Haruki Studies in Tamkang University, acceptance, activity, fuse

# 村上春樹研究センターの活動による村上春樹研究の 浸透と受容の深化

落合由治

淡江大学日本語文学科教授

## 要旨

淡江大学日本語学科所属の曾秋桂教授は、村上春樹を大学院の授業科目として設定し、学科内に村上春樹研究室を設けて、村上春樹研究とシンポジウムを2012年から始めた。その成果が実り、文学、日本語学、日本語教育学、メディア研究、心理学、社会学、歴史学、翻訳等々多領域の研究者が台湾で研究を始めるようになった。その結果、2014年8月に村上春樹研究センターが台湾教育部により認可された。このセンターは、国際シンポジウムを開催し、同時に、淡江大学の一般教養授業やMOOCsを開設して、村上春樹の認知を深める活動をおこなっている。

世界に越境できる言語文化、言語表現作品として、村上春樹は、混迷を深める21世紀に異文化の壁と自文化アイデンティティへの執着を超えた世界を提示している。その作品の秘密は現在の様々な人類の摩擦と困難を乗り越える鍵になるにちがいない。世界初の村上春樹研究センターが、世界各国でのそれぞれ独自の村上春樹研究の口火になれば光栄である。本論文では、村上春樹研究センターの活動についてその国際的な意味を考察していきたい。

キーワード:台湾、村上春樹研究センター、受容、活動、口火

# 村上春樹研究センターの活動による村上春樹研究の 浸透と受容の深化

落合由治

台湾 淡江大学日本語文学科

## 1. はじめに

台湾では1980代半ばから村上春樹の翻訳紹介が始まり、『ノルウェーの森』が爆発的なベストセラーとなって一気に人気が高まった。藤井省三の紹介<sup>1</sup>のように中華圏というまとまりでの捉え方も可能であるが、台湾では1990年代以降の民主化の発展で、翻訳で村上作品を受容した世代が現代化の象徴として村上春樹を捉え、文化産業などの経済、ビジネスでの応用や、英米文学研究者が世界的流行としての村上作品に注目するなど、いわゆる「日本文学」という近代的フレームを超えた受容がなされ、若者世代を中心に「文青」という文化的なライフスタイルを大切にしている流行も生まれ、生活にも溶け込んでいる。<sup>2</sup>

そうした状況を捉えて、淡江大学日本語学科所属の曾秋桂教授は、村上春樹を大学院の授業科目として設定し、学科内に村上春樹研究室を設けて、村上春樹研究を始め、シンポジウムを2012年から始めた。その成果が実り、生存中の作家を研究してはならないという日本文学の研究タブーを超え、また、文学にとどまらず日本語学、日本語教育学、メディア研究、心理学、社会学、歴史学、翻訳等々多領域の研究者が台湾で研究を始めるようになった。その結果、2014年8月に村上春樹研究センターが台湾教育部により学科相当研究機関として認可され、国際シンポジウムを開催するようになり、同時

<sup>1</sup> 藤井省三（2007）『村上春樹のなかの中国』朝日出版社参照。

<sup>2</sup> 2000年以降の台湾での村上春樹受容の実態と変化についてまとめた調査、研究として以下を参照。佐川藍（2018）「台湾における村上春樹受容—村上春樹関連活動をめぐって—」淡江大学日本語文学系碩士論文  
[http://etds.lib.tku.edu.tw/etdservice/view\\_metadata?etdun=U0002-0803201813033600](http://etds.lib.tku.edu.tw/etdservice/view_metadata?etdun=U0002-0803201813033600)

に、淡江大学では世代差が広がりつつある台湾社会に村上春樹の価値を伝える一般教養での授業やMOOCsを開設して、村上春樹の認知を深める活動をおこなっている。

世界に越境できる言語文化、言語表現作品として村上春樹は混迷を深める 21 世紀に異文化の壁と自文化へのアイデンティティへの執着を超えた世界を提示しており、その作品の秘密は現在の様々な人類の摩擦と困難を乗り越えるキーになるにちがいない。世界初の村上春樹研究センターが世界各国でのそれぞれ独自の村上春樹研究の口火になれば光栄である。本論文では、村上春樹研究センターの活動について以下の点からその国際的な意味を考察していきたい。

(1) 台湾での村上春樹文学の流行について、台湾の歴史との関係から考察し、その社会文化的意義について述べる。

(2) 台湾での村上春樹文学の流行を受け、淡江大学日本語文学科で行ってきた村上春樹研究の発展とそこから成立した村上春樹研究センターの活動について経過を紹介する。

(3) 村上春樹文学の価値を社会的に広くアピールするために始めた村上春樹研究センターのMOOCs「非常村上春樹」の目的、構成について述べ、受講者の反応について考察する。

(4) 最後に、村上春樹研究センターが目指す、将来展望について述べ、グローバルな視点での村上春樹研究の意味について考察する。

以上のような内容で、台湾が受け入れたグローバルな文化としての村上春樹文学の意義と、それを受けた村上春樹研究センターの役割について考察していきたい。

## 2. 台湾における村上春樹の流行現象

以下では、まず台湾の歴史との関係で台湾での村上春樹受容の特徴を取り上げる。

現在、台湾は中華人民共和国とはまったく異なる主権、領土、国民を保つ独立国家であるが、1971年の中華人民共和国（以下、大陸政府）国際連合加盟に抗議する国際連合脱退によって次第に公式の

国際的外交関係を持つ国家は少なくなっているが、相互の駐在事務所を介して実質的な外交、経済、交流関係を持つ国家はアメリカ、ヨーロッパ、日本等を始め多数ある。国名については、国民党が1949年に国共内戦に敗れ、中国大陸から台湾に移動してから「中華民国」が使われてきたが、台湾市民の間では正式な国名について議論が続いている。大陸政府は1990年代から「ひとつの中国」を国際的に主張し、各国政府やメディアに圧力をかけてきた。2017年秋には、大陸政府の習近平主席が「2020年までの台湾の軍事的占領」を下令し、同時に第一列島線の実質的占領を目指す政策が採られ、政治的軍事的な国際的緊張のひとつの舞台になっている。<sup>3</sup>

台湾はその歴史の中で常に東西及び大陸・海洋の各勢力が交差する地政学的な位置にあり、歴史の上では台湾の先住民に対して、海外の政権と移住者が常に統治者として入り込んでくる環境に置かれてきた。<sup>4</sup>しかし、いずれの時代も中央政府からは離れた外延に位置してきた関係で、中央の文化自体も外来文化として受け入れる立場にあり、「境界的存在」として基本的文化の中に多様な文化が多重的に同時並行的に存在する独自の文化様式が発展してきた。<sup>5</sup>その中で、

---

<sup>3</sup> Popularmechnics (2017) 「Report: China Has Secret Plans to Invade Taiwan by 2020: Does Beijing really mean to invade? Could it invade?」  
<https://www.popularmechnics.com/military/news/a28510/china-secret-plan-invade-taiwan/> (2018年3月1日閲覧)。また、大陸政府の第一列島線戦略に関しては、東洋経済(2015)「「逆さ地図」で見る、中国にとって邪魔な日本強引に海を渡ろうとする中国の真意」<https://toyokeizai.net/articles/-/70361> (2018年3月1日閲覧)。

<sup>4</sup> 台湾を支配した外来勢力は、①スペイン・オランダ時代(1624-1662) ②鄭成功王朝時代(1662-1683) ③清朝時代(1683-1895) /1858年天津条約による西洋への開港④日本統治時代(1895-1945) ⑤中華民国統治時代(1945-現在)となる。

<sup>5</sup> 研究の一例として、愛知大学現代中国学会(2012)「特集・台湾—走向中国・走向世界」『中国21』は、政治、経済、文化の各面から台湾の多様性を論じている。王淑宜、植田憲(2017)「台湾・三峽地域「民権老街」における街路空間の文化的特質」『デザイン学研究』64-3pp. 3\_51-3\_60は、台湾の旧市街地に残る建築デザインへの外国文化の影響を調査している。

自分をどのような存在として捉えるかというアイデンティティの意識構造も多重性多様性を持っており、それらが同時並行的に同時代に存在する点も極めて台湾的な特徴と言える。中華文化圏の華人文化を基調としながらも、先住民の文化、台湾南部の福建省の文化、客家人の文化、各時代に海外から入った外来文化、第二次大戦後に形成された戦後の文化などが重層的かつ同時並行的に共存しており、選択肢の組み合わせや可能性は非常に多岐に渡っている。<sup>6</sup>言語的にも、先住民の各言語、台湾語、客家語と同時に、日本統治時代に公用語として使われた日本語と第二次大戦後に中華民国政府の公用語になった華語が使われ、それぞれの家族の出自と世代によって使用している言語にも違いが見られる。<sup>7</sup>

村上春樹が台湾社会に受け入れられた背景にはこうした歴史的文化的多様性と重層性が大きく作用していたと考えられる。台湾では村上春樹がデビューして間もない1985年に頼明珠によって『1973年のピンボール』と「4月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて」が翻訳され、続いて『ノルウェーの森』が訳されたことで1989年から村上春樹の爆発的ブームがおこった。

---

<sup>6</sup> 一例として、伊藤恵美子(2016)「「台湾人」という意識：若者のアイデンティティはどこから来たのか?どこへ行くのか?」『愛知東邦大学経営学部東邦学誌』45-1pp.79-89は台湾人の若者へのアンケート調査によって意識の特徴を捉えようとしている。曾文莉(2017)「台湾ニューシネマにおける日本の表象」『人文研紀要』86pp.165-189は台湾の各時代の映画に見られる日本のイメージの変遷から台湾人のアイデンティティの変化を捉えようとしている。石井由理(2018)「台湾の音楽教科書に見られるナショナル・アイデンティティと文化的多様性」『山口大学教育学部研究論叢 = Bulletin of the Faculty of Education』山口大学67pp.53-60は、各時代の音楽教科書の内容を比較することで、台湾の各時代のアイデンティティの葛藤を捉えている。

<sup>7</sup> 一例として、祖父母の世代は日本語と台湾語、父母の世代は華語と台湾語、子供の世代は華語と第二外国語としての英語や日本語のように、同じ一族の中でも世代によって使っている言語に一部しか共通性が見られない場合も多くあった。使用言語の状況は出自によって台湾人、客家人、先住民等の本省人と外省人が分かれ、さらに各家族が置かれた地理的歴史的状況の差異によっても異なっている。

その経過は、東アジアでの村上春樹ブームに先んじるところがあり、それぞれ独自に村上春樹の人气が1990年以後、爆発的に高まった。<sup>8</sup>しかし、台湾の場合、1990年以降、村上春樹の影響は文学研究や文学受容に止まらず、広く社会文化的現象になった点が注目される。台湾での日本語研究や日本文学研究は、日本へ留学して学位を取得した研究者が大多数である関係で、「語学研究は文学研究とはまったく関係がない」「生存中の作家や作品を論じてはならない」というタブーに制約されていたため、2010年前まで村上春樹をテーマにした研究は行われてこなかった。台湾で村上春樹を受容していたのは、建築学、経営学、デザイン、英米文学、音楽やビジネス界など翻訳で村上春樹を読んで文化的刺激を受けてきた世代であり、日本語学習や日本文学研究とはほとんど関係しなかった。しかし、その結果、たとえば「経済美学」などの用語で呼ばれる現代化されたお洒落な流行の指標として村上春樹が機能し、台湾社会の到るところに村上春樹関係の流行が広がることになった。2000年代から2010年代の現在まで「文青」「非常村上春樹」「小確幸」など村上春樹にちなんだ文化的流行を呼ぶ用語が社会的に広く認知され、「森林挪威」汽車旅館」「村上春宿」「海邊的卡夫卡」などホテル、マンション、喫茶店に村上春樹や作品に因んだ名称を付けたりする文化現象が広がった。

特に村上春樹のエッセーから取られた「小確幸」は、元は「個人の嗜好が満たされる幸福」の意味だったが、華語の語彙になって「期待していなかった個人の偶然の幸運」という社会的な場面で使われるようになり、2015年の総統選挙戦期間には、「個人の幸福である小

---

<sup>8</sup> 台湾における村上春樹の翻訳過程については、張明敏（2009）『村上春樹文學在臺灣的翻譯與文化』聯合文學出版社有限公司にまとめられている。藤井省三（2007）『村上春樹のなかの中国』朝日選書は、東アジア地域での村上春樹ブームについて東アジア地域での民主化運動の発展と挫折を村上春樹作品に見られる1960年代の学生運動への挫折感に結びつけて論じている。

確幸ではなく、社会的目標を達成する大確幸が必要だ」などという議論にも発展し、時代の思潮を示す用語として広く使われるようになった。<sup>9</sup>

デザイン、ビジネスとの結合が密接であることと、「小確幸」を巡る総統選挙の論戦事例からも分かるように、村上春樹は、現代化された市民の個人的嗜好や趣味を活かす、現代文化の記号として台湾で機能していると言える。同時に、それはヨーロッパ、アメリカなどのメジャーな現代文化、中国の権威主義的現代化に対する個人化微細化を通じた台湾アイデンティティのひとつの表現方法で、日本のメディア文化、生活文化の台湾の個人志向や日常生活様式への応用と一体のものと考えられる。日本では海外対国内という二項対立が常に浮上する文化思潮は、台湾では多元的価値の同時的共在として顕れ、村上春樹はそれを象徴する文化記号となっていると考えられる。

図1 台湾における村上春樹現象事例



<sup>9</sup> RecordChina (2015) 「台湾総統選の課題は経済だけ！「小確幸」では意味がない！鴻海集団のトップがほえた一台湾」(2018年3月1日閲覧)

<https://www.recordchina.co.jp/b125508-s0-c30-d0042.html> 参照。

<sup>10</sup> Walkerland (2013) 「近天母圓環一超牽絲義式熱烤三明治「小確幸 cafe」」  
<http://www.walkerland.com.tw/article/view/24844> (2018年3月1日閲覧)

### 3. 淡江大学における村上春樹研究の進展

次に、台湾での文化現象としての村上春樹ブームを受けた淡江大学での村上春樹研究の展開について述べる。<sup>12</sup>

#### 3.1 センターの淵源

日本の作家・村上春樹(1949-)は今年 65 歳を迎えるが、現在、ノーベル文学賞候補として最有力視されている、日本の現代を代表する世界的な作家である。台湾に留まらず「村上春樹現象」は海を越え、言語、国境、種族、文化の壁、異文化の差異を越えて今や世界に広がっている。全世界の共通現象となっている「村上春樹現象」は、ただ語学、文学、文化、翻訳の角度から捉えられるにとどまらず、経済学、マーケティング、心理学、歴史学、社会学等の様々な社会の次元からの観点を取り入れることで、「村上春樹学」とも言うべき広大な研究空間を産み出そうとしている。

淡江大学における村上春樹研究のきっかけは、淡江大学張家宜学長の指示による「特色ある学科形成計画」に基づく教育方針に従い、2011年8月1日に外国語文学部呉錫徳学部長の指導を受け、日本語文学科馬耀輝主任の支持で、「村上春樹研究室」（責任者：曾秋桂教授）が成立し、村上春樹研究を淡江大学日本語文学科の特色教育の一つにすることが決まったことからである。2012年から大学院での授業、毎年1回の国際学術シンポジウムを開催してきたが、その後、淡江大学虞国興学術副学長が「村上春樹研究室」の活動を評価し、さらに計画を広げて村上春樹研究の成果を拡大するように

<sup>11</sup> 「挪威森林旅館集團」<http://www.villa-group.com.tw/#>（2018年3月1日閲覧）

<sup>12</sup> 資料は淡江大学村上春樹研究中心サイトによる。

<http://www.harukistudy.tku.edu.tw/main.php>（2018年3月1日閲覧）

指示を受け、淡江大学張家宜学長の同意を得て、103 学年度(2014 年 8 月 1 日)に台湾で初めての「村上春樹研究センター(Center for Murakamiharuki Studies in Tamkang University 略称 CMSTKU)」(教育部から学科相当の学術組織として正式に認定を受けている)を正式に開設し活動することが決まり、曾秋桂教授がセンター主任に任命され、継続して村上春樹研究を深めていく運びとなった。「村上春樹研究センター」の運営が順調に行くように、外国語文学部 FL619 のスペースが「村上春樹研究センター」の事務室として与えられ、淡江大学の 103 学年度から 105 学年度の三年度の重点研究計画となり、その後も、106、107 学年度と継続して、重点計画として承認を受け、淡江大学の経費、空間、設備、人的支援を得て、ソフト、ハードの両面からのリソースを利用し、今後の活動の発展を目指している。

### 3.2 現在までの活動と成果

研究センターの活動は、大きく二つあり、一つは研究大会の開催によって世界の村上春樹研究者、翻訳者と連携しながら「村上春樹学」の成立を目指すこと、もう一つは、授業や出版を通じて、村上春樹の言語作品としての価値をより多くの読者に伝え、世代を超えた継承を目指すことである。

#### 3.2.1 研究大会開催の成果

近年、世界各国の研究者、翻訳家が集まって日本国内で、村上春樹をテーマにした大会や世界的な国際学術研討会が開催されている。その嚆矢は、全世界 16 ヶ国の翻訳家、作家が一堂に集まり、日本語で村上文学のテーマを討論した「Wild Haruki Chase -- How the World is Reading and Translating Murakami」(「春樹の冒険について―世界はいかに村上文学を読んでいるか」)が 2006 年 3 月 25、26 日に東京大学駒場キャンパスで日本国際交流基金会および東京大学文学部の共同で開催されたことからである。参加したのは、村

上春樹研究の専門家ばかりではなく、翻訳家あるいは作家も含まれている。翻訳家に村上春樹研究者の視点を加えて開催されたのは「東アジアと村上春樹シンポジウム」(東京大学山上会館由東京大学文学部主催、2008年11月1日、1日)。続いて、日本国内の近代文学研究者が主体となって開いた「村上春樹と小説の現在-記憶・拠点・レスポンスビリティ」(2010年6月12日13時から17時30分、甲南女子大学由日本近代文文学関西支部主催2010年度春季大会、半日)。また東アジアのカテゴリーで捉えたのは「東アジア文化圏と村上春樹-越境する文学、危機の中の可能性-」(早稲田大学総合人文科学研究センター主催、2013年12月14日13時から17時30分、半日)である。以上のように2年に一回程度、さまざまな団体が村上春樹関係の学会を開いており、その持つ時代的意味を担ってきた。しかし、今まで淡江大学が連続して村上春樹国際学術研究会を開催してきたような例は、世界的には珍しいと言える。言い換えれば、台湾で連続して村上春樹国際学術研究会を開催し続けているのは、世界的な企画であり、世界をリードする重要な意味を持っているとも言える。今まで曾秋桂教授がリーダーとなり淡江大学日本語文学科「村上春樹研究室」および「村上春樹研究センター」で開いてきた7回の村上春樹国際学術会の発表論文数の詳細は以下のとおりである。

1. 「2012 第 1 回村上春樹国際学術研究会(2012. 6. 23)」(経費大学負担)
2. 「2013 第 2 回村上春樹国際学術研究会(2013. 5. 5)」(台湾国科会補助番号 102-2916-I-032-003-A1)
3. 「2014 第 3 回村上春樹国際学術研究会(2014. 6. 21)」(国科会補助番号 103-2916-I-032-001-A1)

2014年8月に台湾教育部認可の正式な研究センターとなってからは、以下の43回のシンポジウムを開催してきた。

4. 「2015 第 4 回村上春樹国際学術研究会 (2015. 7)」日本・北九

州市（国際交流基金助成）

5. 「2016 第 5 回村上春樹国際学術研討会（2016.5）」台湾・新北市淡江大学（国際交流基金、台湾科技部助成）
6. 「2017 第 6 回村上春樹国際学術研討会（2017.7）」日本・京都同志社大学（国際交流基金助成）
7. 「2018 第 7 回村上春樹国際学術研討会（2018.5）」台湾・新北市淡江大学（台湾科技部補助）

今まで主旨を理解しご支援くださった台湾科技部および国際交流基金に心からの謝意を捧げると共に、その支援はこの活動の順調な成長に大きな力となっていることを記しておきたい。

表 1 現在までの村上春樹国際学術研討会発表論文詳細資料

名称	講演	口頭 発表 論文	ポス ター 発表	パネ ル討 論	備註
第 1 回 (淡江大学) 2012 年 6 月 23 日	1	12	13	4	30 篇参加。参加者から好評を頂き、次回への希望が高まった。
第 2 回 (淡江大学) 2013 年 5 月 5 日	1	19	8	5	33 篇参加。台湾の村上春樹翻訳を代表する頼明珠女士と大陸の村上翻訳の代表者・林少華教授が会してパネル討論を実施。
第 3 回 (淡江大学) 2014 年 6 月 21 日	2	16	9	6	33 篇参加。華人圏の村上春樹翻訳の代表的人物葉蕙女士を招いて討論。
第 4 回 (日本小倉) 2015 年 7 月 25－ 26 日 北九州市共催	3	44	0	4	森正人、柴田勝二、小森陽一の各先生の講演、44 篇の論文発表。
第 5 回 (淡江大学) 2015 年 5 月 28－ 29 日	4	32	4	13	加藤典洋、マシュー・ストレッカー、沼野充義、ローランド・ケルトの各先生の講演、32 篇の論文発表。

					表、2回 13名のパネル討論。
第6回 (日本京都同志社大学) 2017年7月8-9日 同志社大学共催	4	44	5	10	宮坂覺、金水敏、沼野充義、マシュー・ストレッカーの各先生の講演、44篇の論文発表、2回 10名のパネル討論。
第7回 (淡江大学) 2018年5月26-27日 淡江大学日本語文 学科・共催	3	33	4	12	中村三春、金水敏、マシュー・ストレッカーの各先生の講演、37篇の論文発表、10名のパネル討論、映画発表2名。

7回の開催ではあるが、村上春樹について多数の研究論文が発表され、台湾での村上春樹研究の発展に成果をあげた。これは、同時に台湾がすでに村上春樹に関する国際的学術研究会を開催できる実力を備えてきていることを意味する。また村上春樹研究の潜在的可能性を発揮し、台湾国内の学術研討の雰囲気高め、村上春樹相関研究での人才を輩出する基礎づくりにもなっている。

特に、こうした活動を踏まえ曾センター主任はすでに村上春樹事務所と連絡できる関係を持つようになった。2014年から作家本人にも台湾で村上春樹に関する学術活動を推進している状況をお知らせし、その結果、「2014 第3回村上春樹国際学術研討会」の開幕式上では、ご本人のご出席はかなわなかったものの村上春樹自身から台湾のファンと参加者に向けたメッセージをいただいた。曾センター主任が代読しましたが、参加者にそれが作家本人のメッセージであることが分かると、感動の涙をこぼす参加者も出た。読み上げた後、村上春樹との約束によりメッセージはそのまま破棄されましたが、当日の参加者は、まさに作家とともに同時代にあるまたとないう瞬間を実感した。その後も、活動の様子について継続して連絡をおこなっている。

研究センターとなって今まで4回にわたり順調な研究成果をあげてきたが、台湾の有限なリソースと国際的な立場の制約を突破する必要も現在出てきている。そこで、センター成立に合せ、台湾の村

上春樹研究における知名度を高め、村上春樹研究に関する日本と台湾の研究者の距離を縮め、より一層、村上春樹研究のレベルアップを目指すことにし、日本の作家である村上春樹の日本での研究を拡大するため、2015年、2017年に日本でのシンポジウムも開催した。それによって、日本を始め東アジアの学界また欧米の翻訳者からの注目を集め、台湾の国際的立場を高め、国際的軋轢が頻発し始めている東アジアの平和的発展にも貢献して参りたいと考えている。その評価を台湾に持ち帰り、さらに多くの村上春樹を愛する世界の関係者を集め、台湾でも2016年、2017年の大会を開催し、さらに世界的な村上春樹研究の重鎮としての基礎を造りたいと考えて、2018年には日本での大会開催の企画をおこなっている。

大会の成果は毎年『村上春樹研究叢書』にまとめられている。

### 3.2.2 啓発普及活動の展開

1980年代から2000年代まで台湾では村上春樹は熱狂的なファンを集めていたが、2010年に入ると次第に世代の懸隔が生じて若者世代に読まれなくなっている現状があり、また、近年の歌謡、漫画、アニメ、ゲーム、ドラマ等の日本の若者文化コンテンツの停滞衰退もあって日本語学習熱も衰退傾向にある現状に対し、もう一度日本の言語文化、表現文化の価値を再認識してもらい願いを込めて、センターでは以下の活動を継続しておこなっている。

一つは、大学院での授業による村上春樹研究の普及と推進である。村上春樹文学作品研究を目標に淡江大学日本語文学科修士課程では「村上春樹専題研究(一)」、「村上春樹専題研究(二)」として日本語文学科修士クラス二年生のカリキュラムに村上春樹研究を導入し、現在もセンター長の曾秋桂教授、同学科の教師陣として落合由治(教授)、内田康(副教授)、王嘉臨(副教授)、葉凌(助理教授)などの熱烈な支持で、毎週決まった時間の授業に出席し、共同して学生の研究発表を聞き、日本語での質疑応答を重ねている。毎回の授業では作品の読みに関して質疑や議論が活発に行われ、村上春樹を研究する新しい関心が広がっている。こうした活発な学習課程により、村

上春樹研究を志す多くの日本語人材の若者たちを育てることはセンターの基本的な目標である。

もう一つは、淡江大学のカリキュラムとして毎学年後期に各研究者を招いて教養講義「村上春樹講座」を開設し、学部の境界を越えて村上春樹の価値の啓発と普及を目指している。同時に 2016 年からは中日二カ国語で MOOCs 「非常村上春樹」を公開して、村上春樹の価値、楽しさ、研究の視点などを提起して、関心を喚起する活動も続けている。さらに、毎年一回、著名な村上春樹研究者を招聘して、公開講演会を開催している。今まで、柴田元幸、ジェイ・ルービン、内田樹、清水良典の各講師をお呼びし、村上春樹作品の文学的文化的価値について講演を行ってきた。

以下では、特に新しい大学のメディアとして注目されている MOOCs での村上春樹の言語的価値に関する啓発について紹介する。

#### 4. MOOCs 課程「非常村上春樹」の目的、構成および受講者の反応

淡江大学では、MOOCs の利用を積極的に進める方針を出し、103 (2014) 学年度から全校での取り組みを進めている。MOOCs 制作には専門的技術が必要になるため、撮影やコンピューターシステムの技術面は、淡江大学遠距組(遠隔授業・製作担当)が中心になって、MOOCs 制作の企画を集め、その中から有意義と思われる授業について、制作と公開を進めている。当センターの MOOCs 「非常村上春樹」も、遠距組から多大な支援を受けて企画と制作が行われた。「非常村上春樹」は、台湾の教育部から許可された 105 年学年度(2016. 8-2017. 7)の事業支援案のプランの一つとなり、公開は台湾の MOOCs 共通プラットフォームの「ewant 育網開放教育平台(<http://www.ewant.org/>)に掲載された。<sup>13</sup>この計画では、各進行段階で教育部からの監査が 4 回あり、それぞれ専門家による書類審査と現地視察、

---

<sup>13</sup> ewant 「非常村上春樹」

<http://www.ewant.org/admin/tool/mooccourse/mnetcourseinfo.php?hostid=5&id=469> で公開している。(2018 年 3 月 1 日閲覧)

最終段階での審査が行われ、同時に学習者の反応も重要な審査基準になる。計画について適切な進行や改善が見られない場合は、中止となる。「非常村上春樹」は審査意見を元に遠距組とその都度協議して、内容の改善を進めた。

#### 4. 1 「非常村上春樹」のカリキュラム設計

一般の授業と同じく、MOOCs の場合も目的に応じてカリキュラムを設計する必要がある。MOOCs「非常村上春樹」では、教養課程の授業との連携を考えて、(1)精読を通してテキストへの理解力を高めること、(2)分析手法を身につけて、的確に表現すること(3)作品と読者との対話の3つの教育目標を設定した。同時に、学習者にとって、(1)日本現代作家村上春樹への基本的な認識が出来ること、(2)村上春樹の創作を最低限2作読み、啓発されるように期待すること、(3)村上春樹の読みから異文化の存在に気づき、それを受け入れられるようにすること、(4)文学作品間にあるべき異同共存の真なる意味を味わえること、(5)MOOCs 課程での掲示板を使って、ピア・ラーニングに刺激され、切磋琢磨し、より高次元な自己形成を期待することという5つの学習目標を想定した。

教材として村上春樹の最新短篇小説『女のいない男たち』(2014)をテキストに(6週分)で7つの短篇を取上げて4名の教員が分析をおこない、作品紹介、講義と、受講者側の学生との対談を通して、異文化の存在、文学作品間にあるべき異同共存の真意を共に探り、村上春樹への理解を深めてもらうことを目指した。授業の各週の内容は以下の、表2のとおりである。

表2 MOOCs「非常村上春樹」の内容

進度	主題	担当・使用言語	内容
1	講義 台湾で村上春樹の「小確幸」を読む	曾秋桂(台湾籍) 担当/中国語での講義、日本語字幕の表記	台湾での村上春樹の受容と流行の紹介

2	講義「点から、線、面へと村上春樹作品へのアプローチ」	曾秋桂(台湾籍)担当／中国語での講義、日本語字幕の表記	村上春樹作品の読解方法についてコースの紹介
3	【点】「女の人と、男の人との相撲戦」	王嘉臨(台湾籍)担当／中国語での講義、日本語字幕の表記	村上春樹作品の男女関係を巡る問題
4	【線】「村上春樹「恋するザムザ」を読み解くー〈危機の時代〉を生き抜く作法」	内田康(日本籍)担当／日本語での講義、中国語字幕の表記	村上春樹「恋するザムザ」と関連する作品群の解明
5	【面】「村上春樹作品の社会文化記号の表象ー『女のいない男たち』をめぐって」	落合由治(日本籍)担当／日本語での講義、中国語字幕の表記	村上春樹作品中の社会文化記号の分析と紹介
6	対談 【総合】「非常村上春樹のQ&A」	担当先生と学習者達(日本語と中国語)	各週の概要と学習者との質疑応答、相互討論

M00Cs は「村上春樹講座」の授業と連動させて、成績評定項目と基準も設けている。(1)授業への参加度 20%、(2)各週授業後の練習題目 10%、(3)オンラインでの発言・討論 30%、(4)期末レポート 40%、(5)特別得点として村上春樹研究センターの主催による「ショートムービーコンクール」などに参加した学習者に5点とした。

#### 4. 2M00Cs の公開と学習者の反応

M00Cs コースの1回目は、教育部の審査に備えた試験公開として2016年11月30日から2017年1月11日まで実施したが、公開してみると字幕が制作途中など不完全な所が多々あり、2回目をより整

えた内容で「2017年春季コース」として2017年3月20日から5月8日まで公開した。1回目の公開で問題のあったところや受講者側の反応がよくなかった点を改善し、比較的、完全なコースとして公開した。

表3 2回の公開の実施結果

実施数と時期	1回目試験公開 2016年11月30日-2017年1月11日	2回目(2017年春季クラス)2017年3月20日から5月8日
(1)受講登録者	147名	579名
(2)オンライン合格者	9名	112名
(3)合格率	6.12%	19.34%
(4)成績分布	合計 9名	合計 112名
	90-99点人数 4名	90-99点人数 14名
	80-89点人数 2名	80-89点人数 39名
	70-79点人数 2名	70-79点人数 33名
	60-69点人数 1名	60-69点人数 26名

表3のように、学習者の合格率が6.12%から19.34%に上昇し、登録者の10%以上に達したここから見ると、2回目は成功した例で、学習効果は、より期待された目標に近いと言えよう。2回とも高い点数を取った80点以上の学習者が合格者の半数近くに達していることから見ると、評価基準のデザインは合理的である。中国語と日本語を兼ねた講義形式を特色とし、日本語や中国語が分かる受講生をターゲットする利点を持つ本MOOCs「非常村上春樹」は、世界に多数あるMOOCsコースでも、比類のない特徴を備えている。2種類の言語を用いるコースは世界各国のMOOCsでも珍しく、台湾での日本語教育や日本文学普及にも有意義な成果となった。

続いて、MOOCsで重要視されるピア・ラーニング的学習(オンラインでの相互発言・討論)のデータの比較であるが、以下の表4のよう

になった。

表 4 受講後の学習者の反応

実施数	1 回目試験公開 2016 年 11 月 30 日 - 2017 年 1 月 11 日	2 回目 2017 年春季クラス 2017 年 3 月 20 日から 5 月 8 日
(1) 受講登録者	147 名	579 名
(2) 討論文章	64 篇	947 篇
(3) 各週授業後の 練習題目への回答	63 人	823 人

1 回目は受講者の約 50%が何らかの反応を示し、2 回目はのべ数で受講者の約 2 倍の反応が返ってきている。2 回とも比率が低いものではないことから見ると、このコースでは、サイトの掲示板を通じて、学習者の質問への教師の回答と学習者相互の討論でピア・ラーニングによる学習効果が発揮されていると見ることができる。MOOCs が成果をあげるためには、こうした教授者と学習者の双方向性と学習者の相互刺激的なピア・ラーニングによる学習効果を確保することが授業の成否を決めるポイントになっていると考えられる。

資料 1 学習者の感想例

内訳	KU(略名)	YU(略名)	KI(略名)	HI(略名)
内容	經由這一次的課程更加瞭解村上春樹在作品中的含意，個人很喜歡點線面這個分析方式，讓讀者不單單只是閱讀過作品，可以藉由一己之力去瞭解作品中的人物、人物與人物的關係、和故事背景。想請問一下磨課師課程明年還會繼續開嗎？ <u>很期待新的課程與作品的分析！(如果畢業了還能繼續參與課程嗎?)</u> (2017 年 04 月 30 日 23 : 10)	經過這次六週的上課，深深體會到村上先生厲害的地方，但如若沒有上課，自己一個人看是很難發現這裡面深奧的地方，請問老師如果要繼續閱讀村上老師的書籍，該從什麼書入門會比較容易懂呢？ (2017 年 04 月 30 日 11 : 54)	透過非常村上春樹的教育平臺，我了解到村上的人以及相關作品，也發現他是一位很不一樣的作家，也 <u>更想了解他其他的作品。</u> (2017 年 04 月 29 日 18 : 08)	之前因為喜歡的作家表示過作品深受村上春樹影響，但一直不知如何從何開始入門接觸理解村上。 <u>很高興這次能有這樣一個機會。</u> (2017 年 04 月 29 日 15 : 07)

学習者からの反応を見ると、学習者は「非常村上春樹」の受講に満足し、今後とも村上春樹文学の鑑賞、理解を深めていきたいと考えるようになった点で共通しており、学習者に村上春樹に触れる契機を与え、今回のコースが興味を高めるきっかけとなったと言えよう。まったく興味関心のない視聴者にアピールすることも啓蒙的啓発的活動では重要ではあるが、文学や文芸など人文社会的コンテンツに興味を持っているが、まだ具体的に日本文学や村上春樹を知らなかった学習者に、それまでになかった発見をもたらし、新しい刺激を与えたことは MOOCs コースの大きな意味と言える。

今回の MOOCs は、台湾で先端的教育を目指す活動の中でも注目を集め、2017 年 12 月の中華民國數位學習學會「2017 第三屆學習科技金質獎」で表彰され<sup>14</sup>、また、2018 年 5 月の「2018 臺灣線上學習高峰會」ewant 育網優質課程獎を受賞した。<sup>15</sup>

「非常村上春樹」のカリキュラム設計は、複数の担当者が協力することで、多面的な講義を準備するとともに、一人の講義者が話し続ける単調さを克服し、同時に学生からの反応をコース設計に取り入れてピア・ラーニング的活動を活かし、2 言語で公開されている点に特徴があり、多様な関心を集めることが可能な内容になっている。今の MOOCs のプラットフォームの一方方向生を克服する方法のいくつかを実証できたと言えよう。

さらに一般的視聴者への啓発活動として、現在は、時報出版と協力して、一般向けの実況講義を Facebook を使って公開中である。<sup>16</sup> インターネットを様々な方法で人文社会系のコンテンツへの社会的

---

<sup>14</sup> 中華民國數位學習學會「2017 第三屆學習科技金質獎得獎名單」

<http://www.ael.org.tw/award-list.cshtml> 参照。(2018 年 3 月 1 日閲覧)

<sup>15</sup> 淡江時報 1066 期 (2018)「非常村上春樹獲頒「2018 臺灣線上學習高峰會」ewant 育網優質課程獎」<http://tkutimes.tku.edu.tw/dtl.aspx?no=48602> 参照。(2018 年 6 月 25 日閲覧)

<sup>16</sup> Facebook「《直播節目：村上春樹研究中心》」

[https://www.facebook.com/search/str/%E3%80%8A%E7%9B%B4%E6%92%AD%E7%AF%80%E7%9B%AE%EF%BC%9A%E6%9D%91%E4%B8%8A%E6%98%A5%E6%A8%B9%E7%A0%94%E7%A9%B6%E4%B8%AD%E5%BF%83%E3%80%8B/keywords\\_blended\\_videos](https://www.facebook.com/search/str/%E3%80%8A%E7%9B%B4%E6%92%AD%E7%AF%80%E7%9B%AE%EF%BC%9A%E6%9D%91%E4%B8%8A%E6%98%A5%E6%A8%B9%E7%A0%94%E7%A9%B6%E4%B8%AD%E5%BF%83%E3%80%8B/keywords_blended_videos)

関心を喚起していくことは、今後の大学教育にとって非常に大きな意味を持つであろう。

## 5. 村上春樹研究センターの将来展望

最後に今後の村上春樹研究センターの展望について述べておきたい。短期の目標として、センター拠点の確立とソフト面ハード面の整備、人的ネットワークの充実を目指している。現在、5年目を迎え、この目標は次第に達成されつつある。続く、中期の目標は、センターの研究機能の質的向上と村上春樹氏招請実現である。今後の活動の中心は、さまざまな方面への研究の拡大と充実である。そして、可能であれば村上春樹自身をシンポジウム等に迎え、従来はすでに過去の時代や人物ばかりを扱ってきた人文系研究の中で、同時代的研究の意義を世界にアピールしていきたい。そして、最終的には国境を越えて世界に共有された村上春樹について、長期目標としてグローバルな研究領域として村上春樹学を確立することを目指している。

村上春樹は世界的な作家であるが、その受容と評価は各国の状況によってまったく異なる点が多い。特に、東アジア圏と欧米圏では村上春樹の社会的意義は大きく異なっている。これは、村上春樹作品の言語が地域の多様性を尊重するグローカライゼーションに適していることを意味している。同時に、それは日本文学という近代的研究のフレーム領域に限定されず、その点で先進的と後進的のような現代的ランキング思想（近代的メリトクラシー）からも離れていると言える。

その中で、特に台湾の村上春樹の受容はまさに現地化、グローカライゼーションの典型である。グローバリゼーションは、強力なモデルを基準にした1つの基準でランク付けを行うが、グローカライゼーションは各文化の個性の表現である。村上春樹の作品は、むしろランキングからの解放を許可し、各国、民族、文化の独自性を見つける方向に読者の視線を誘導する機能を持っていると言えよう。

当センターの人文社会科学的ビジョンは、村上春樹の研究を通じた各国の文化的グローバリゼーションを追求し、標準化統一化を志向する近代的グローバリゼーションに対してポストモダニゼーションを目指すことである。<sup>17</sup>

図2 近代的グローバリゼーション

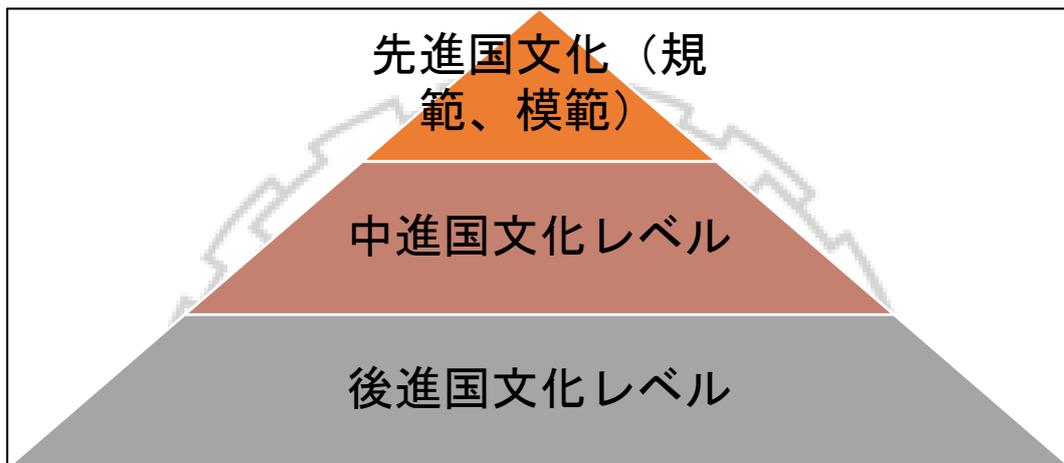


図3 グローカリゼーションの発想



<sup>17</sup> グローカル概念と事例研究については上杉富之編（2016）『社会接触のグローカル研究』成城大学グローカル研究センターを参照。

## 6. おわりに

今後も村上春樹の作品をめぐって、文学にとどまらず広く人文社会系の研究者のグローバルで自由なネットワークの中での研究を目指す中で、村上春樹学の形成に進んでいきたい。同時に、それは近代の人文社会科学という研究フレームから文学を解放することであり、同時にトップダウン式に文化や文明をランキング化しようとする近代的思想を乗り越えることである。すでに現象として異なる文化圏でそれぞれの受容が見られる村上春樹の言語作品には日本語文学としての価値と同時に、文化の相違を超えてそれぞれの文化が自己自身の価値を見出す通路が産み出されている。それは近代的価値観による対立と緊張の広がるグローバリゼーションの中において、グローバルでありながら同時に個別的であることを許す近代を超えた世界を志向させる言語作品である。その構造と機能を解明することはまさに 21 世紀の進む方向を示すものになるに違いない。

その点で村上春樹作品には近代の文学を超える力が備わっており、当センターの目標はそれを明らかにしていくことで、新しい人文社会系研究を構築していく回路を見出すことである。当センターの活動を今まで支えてくださったそれぞれの分野の諸賢に改めて謝意を表するとともに、当センターが小さいながらも、近代の荒海に翻弄される人々に、ひとつの灯台の役目を果たすことができればと願う次第である。

## 注記

本論文は、2018年3月の'40 Years with Murakami Haruki' at Newcastle University, (2018.3-8.9)での発表内容に加筆訂正を加えたものである。また、105年科技部研究案 105-2410-H-032 -074 -MY2 の研究成果の一部である。

## 参考文献

愛知大学現代中国学会 (2012)「特集・台湾—走向中国・走向世界」『中国 21』  
ewant「非常村上春樹」<http://www.ewant.org/admin/tool/mooccourse/mnetcourseinfo.php?hostid=5&id=469> (2018年3月1日閲覧)

- 石井由理 (2018)「台湾の音楽教科書に見られるナショナル・アイデンティティと文化的多様性」『山口大学教育学部研究論叢 = Bulletin of the Faculty of Education』山口大学 67pp. 53-60
- 伊藤恵美子 (2016)「「台湾人」という意識 : 若者のアイデンティティはどこから来たのか?どこへ行くのか?」『愛知東邦大学経営学部東邦学誌』45-1pp. 79-89
- 上杉富之編 (2016)『社会接触のグローバル研究』成城大学グローバル研究センター
- Walkerland (2013)「近天母圓環－超牽絲義式熱烤三明治「小確幸 cafe」  
<http://www.walkerland.com.tw/article/view/24844> (2018年3月1日閲覧)
- 王淑宜、植田憲 (2017)「台湾・三峽地域「民権老街」における街路空間の文化的特質」『デザイン学研究』64-3pp. 3\_51-3\_60
- 佐川藍 (2018)「台湾における村上春樹受容－村上春樹関連活動をめぐって－」淡江大学日本語文学系碩士論文 [http://etds.lib.tku.edu.tw/etdservice/view\\_metadata?etdun=U0002-0803201813033600](http://etds.lib.tku.edu.tw/etdservice/view_metadata?etdun=U0002-0803201813033600)
- 曾文莉 (2017)「台湾ニューシネマにおける日本の表象」『人文研紀要』86pp. 165-189
- 淡江時報 1066 期 (2018)「非常村上春樹獲頒「2018 臺灣線上學習高峰會」ewant 育網優質課程獎」<http://tkutimes.tku.edu.tw/dtl.aspx?no=48602> 参照。(2018年6月25日閲覧)
- 淡江大学村上春樹研究中心 <http://www.harukistudy.tku.edu.tw/main.php> (2018年3月1日閲覧)
- 中華民國數位學習學會「2017 第三屆學習科技金質獎得獎名單」  
<http://www.ael.org.tw/award-list.cshtml> (2018年3月1日閲覧)
- 張明敏 (2009)『村上春樹文學在臺灣的翻譯與文化』聯合文學出版社有限公司
- 東洋経済 (2015)「「逆さ地図」で見る、中国にとって邪魔な日本－強引に海を渡ろうとする中国の真意」<https://toyokeizai.net/articles/-/70361> (2018年3月1日閲覧)
- 「挪威森林旅館集團」<http://www.villa-group.com.tw/#> (2018年3月1日閲覧)
- Facebook「《直播節目：村上春樹研究中心》」  
[https://www.facebook.com/search/str/%E3%80%8A%E7%9B%B4%E6%92%AD%E7%AF%80%E7%9B%AE%EF%BC%9A%E6%9D%91%E4%B8%8A%E6%98%A5%E6%A8%B9%E7%A0%94%E7%A9%B6%E4%B8%AD%E5%BF%83%E3%80%8B/keywords\\_blended\\_videos](https://www.facebook.com/search/str/%E3%80%8A%E7%9B%B4%E6%92%AD%E7%AF%80%E7%9B%AE%EF%BC%9A%E6%9D%91%E4%B8%8A%E6%98%A5%E6%A8%B9%E7%A0%94%E7%A9%B6%E4%B8%AD%E5%BF%83%E3%80%8B/keywords_blended_videos) (2018年3月1日閲覧)
- 藤井省三 (2007)『村上春樹のなかの中国』朝日出版社
- Popularmechnics (2017)「Report: China Has Secret Plans to Invade Taiwan by 2020: Does Beijing really mean to invade? Could it invade?」  
<https://www.popularmechnics.com/military/news/a28510/china-secret-plan-invade-taiwan/> (2018年3月1日閲覧)
- RecordChina (2015)「台湾総統選の課題は経済だけ!「小確幸」では意味がない! 鴻海グループのトップがほえた一台湾」<https://www.recordchina.co.jp/b125508-s0-c30-d0042.htm> (2018年3月1日閲覧)

※2018年4月30日受領 2018年6月30日審査通過

# 導入自我評量和同儕互評的課程設計

## —以學習成效為導向的概論式課程—

林玉惠

銘傳大學應用日語學系教授

### 摘要

教學現場所指的評量大致可分成自我評量與同儕互評等兩種。而評量的目的則是期望能有效掌握學習狀況與改善教學。近年來，評量的方式不僅止於紙筆測驗，而是根據評量對象的不同，評量的種類與方式也非常多樣。例如：發表、教室活動、上課態度與積極度、小組討論、討論、製作作業或報告、完成實作成品等。教學現場必須導入多元評量來因應學生的多樣性，同時也需要能評量無法以測驗成績呈現或是無法量化的部分。

概論式課程不以語言的五技能為授課目標，而是以理解異文化或是強化學習日語的學習動機為主，因此要靠教師與測驗成績來評量學習成效有相當程度的困難。因此，本研究以銘傳大學應用日語學系的「日本旅遊概論」為例，進行自我評量和同儕互評。該課程不僅是概論式課程，同時也是修課人數 100 人以上的大班班級，研究結果不僅能整理長久以來較難以測驗評量的問題，亦能提供日後課程設計與精進學習參考。

關鍵字：學習成效、學習評量、自我評量、同儕互評、概論式課程

## **Self-evaluation and Peer-evaluation Course Design: Learning Result Orientated Theoretical Lessons**

Lin, Yu Hui

Professor, Ming Chung University, Taiwan

### **Abstract**

Classroom evaluation can be broadly divided into two types, Self-evaluation and Peer-evaluation. The purpose of classroom evaluations is to judge the learning effectiveness and improve the instructions. However, in recent years, the form of evaluation isn't limited to paper tests any longer, it's becoming more versatile. For example, the forms including presentations, classroom activities, class participation, group discussions, reports, homework, projects, etc. The class must be able to incorporate versatile evaluations for the diversity of students and access learning results that can't be measured by paper test or in other similar forms.

The goal of theoretical lessons isn't limited to the five skills of language but also includes the understanding of cross-cultural or strengthen learning motive. Relying on instructors and examinations to evaluate learning is difficult. Therefore, this paper uses the Japan Tourism Introduction class, a large class with more than 100 students and a theoretical lesson, as an example to evaluate the results of self-evaluation and peer-evaluation. Based on the results, it concludes that the problems of evaluations have been difficult to see and provides a reference for future curriculum redesign and learning improvement.

**Keywords:** Learning Result, Learning Assessment, Self-evaluation, Peer-evaluation, Theoretical lessons

# 相互評価・自己評価を取り入れた授業デザイン —「概論的授業」の学習成果の可視化を目指して—

林玉恵

銘傳大学応用日本語学科教授

## 要旨

教育現場における評価を考えた場合、大きく学習者の学習成果と教師の指導効果との2種類に分けられる。評価の目的は、学習状況の把握と授業改善を図ることにある。しかし、近年、筆記試験のみならず、他の事柄を評価することもあり、評価の種類と方法は多岐・多様になってきている。例えば、発表、教室活動、授業中の態度や意欲、グループでの話し合い、論述やレポートの作成、宿題・提出物の提出、作品の制作などである。いわゆるパフォーマンス評価を取り入れる必要があり、学習者一人一人の学びの多様性に応じて、筆記試験では測定できない能力あるいは点数化しにくいものも評価しなければならなくなっている。

言語の五技能の育成を授業の目的としない概論的授業は、異文化理解や日本語習得の動機づけを教育目標とするため、学習成果を教師と筆記試験によって可視化することは困難である。そこで、本稿では、銘傳大学応用日本語学科「日本旅遊概論」を例に、概論的授業とくに履修者が100人以上の多人数クラスにおける学習成果の評価方法を取り上げ、学習者による相互評価および自己評価の結果を考察することで、これまで見えづらかった評価の問題点をまとめ、今後の授業デザインや学習向上について、改めて考えてみたいと思う。

キーワード：学習成果、学習評価、自己評価、相互評価、概論的授業

# 相互評価・自己評価を取り入れた授業デザイン —「概論的授業」の学習成果の可視化を目指して—

林玉恵

銘傳大学応用日本語学科教授

## 1. はじめに

教育現場における評価を考えた場合、大きく学習者の学習成果と教師の指導効果の2種類に分けられる。教師の指導効果は教授面での評価であり、教師が独自に評価項目を作成して行う場合もあるが、教育機関の主導で授業評価という形式で実施されることが多い。一方、学習者の学習成果の評価目的は、学習状況の把握と授業改善を図ることにある。従来、試験あるいは教師が点数をつけることで、学習成果を評価することが一般的であった。しかし、近年、筆記試験の結果のみならず、別のものを評価することが多くなり、評価の種類と方法は多岐・多様になっている。例えば、発表、教室活動、授業中の態度や意欲、グループでの話し合い、論述やレポートの作成、宿題・提出物の評価、作品の制作などである。いわゆるパフォーマンス評価を取り入れる必要性が高まり、近年は学習者一人一人の学びの多様性に応じて、筆記試験では測定できない能力あるいは点数化しにくい事柄を評価しなければならない。

言語の五技能の育成を授業の目的としない概論的授業は、異文化理解や日本語習得の動機づけを教育目標とするため、学習成果を教師と筆記試験によって可視化することは困難である。また、概論的授業の多くは多人数クラスであるため、学生と教師の距離が遠く、コミュニケーションを取ることが難しくなる。そこで、本発表では、銘傳大学応用日本語学科「日本旅遊概論」を例に、概論的授業とくに履修生が100人以上の多人数クラスにおける学習成果の評価方法について取り上げ、学習者による相互評価の結果を考察することで、これまで見えづらかった評価の問題点をまとめ、今後の授業デザインや学習向上について、改めて考えてみたいと思う。

## 2. 先行研究

学習評価と学習成果はともに日本語教育において重要な問題であるため、これらに関する先行研究は少なくない。ここでは、授業と評価法の関係と相互評価および自己評価を対象とする研究に焦点を絞り、本稿と関連性の高いものを中心に概要と課題をまとめたのち、本稿の研究内容と比較したい。

石田敏子（2008）は日、英の大学評価について調べ、授業評価に関する研究成果、授業評価結果の集計・分析、授業評価結果のフィードバック・活用、日・英授業評価項目の実際、自己点検・評価、外部評価、日本語教育関係者への示唆を中心に分析し、学生による授業評価の調査結果をまとめた。その結果、一つによりよい日本語教育のためには教員が最も望ましいこと、二つに授業評価の結果を教員にフィードバックし、授業改善につなげること、三つに授業評価はもっと日本語教育の現場で積極的に活用できること、四つに授業評価を行ったことによって教員の質の向上に繋がったことが明らかになった。

国際交流基金（2011）は日本語学習の目標を測る到達度評価を行う際の方法や留意点を紹介し、特に①教えたことを測ること、②目的に合った「ものさし」を使うこと、③テストでは測りにくい学習の要素も評価すること、④学習者の自己評価の力を育てることの4点が重要だと指摘する。この本は「『学習を評価する』とは」、「テストによる評価」、「テストによらない評価」によって構成される。「『学習を評価する』とは」では、評価の対象、評価の目的、どのような能力を評価するか、評価の方法、学習者にとっての評価について説明し、評価は学習者を評価するのみならず、教師が指導の成果を測るものと学習者自身が学習成果を評価するものであることを述べる。「テストによる評価」では、テストが測るもの、テスト作成の留意点、テストの問題例、テストの設計、テストの得点の分析について説明し、言語知識および総合的な運用を測るテストの問題例を提示し、テストの方法や評価の観点が学習者の学習方法に与える影響や

テストの得点の分析方法を考察する。「テストによらない評価」では、ポートフォリオとは何か、ポートフォリオ評価の特徴、ポートフォリオの評価、自己評価の力を育てる方法について説明し、学習経過の記録や成果物を評価することによって、学習者の成長を測る「ものさし」を学習者自身の中に育てることに言及している。

つぎに、近藤ブラウン妃美（2012）は、評価についての理論と日本語教育現場で関わってきた評価に関する活動や研究内容について、データおよび資料を提示して詳細に解説している。この本は評価理論、言語テスト理論、到達度テストの妥当性・信頼性・有用性、クラス内評価、目標基準準拠テストおよび集団基準準拠テストを利用した評価の違い、年少者を対象にした日本語プログラムの評価、著者が担当する日本語教育実習クラスにおける評価活動について述べられている。日本語教育実習でのティーチング・ポートフォリオの内容や評価方法や効果的な作成法も提示し、実習生および指導教員による授業観察とそのフィードバックに基づく形成的評価についても言及している。

また、許均瑞（2014）は総合型多技能授業「新聞日本語」の授業デザインを考察し、21名の学習者のアウトプットによる自他評価を分析した。その結果、一つにアウトプットの必要な多技能型の授業デザインにより、学習者の運用力の評価レベルに違いがもたらされたこと、二つに自己評価は他者評価より低くなる傾向が見られること、三つにルーブリックの分析により教師の自己認識と他者からみた成果とに差が存在していることを明らかにした。さらに、ルーブリックの使用によって、学習者の内省から多様な気づきを見出せたこと、その気づきを理解すれば教師と学習者の間のずれが可視化できることも指摘する。

最後に、黄鈺涵（2015）は国際交流基金が取り上げた JF スタンダードと Can-do の概念に基づき、筆者が担当している台湾大学の第二外国語の日本語授業に取り入れた評価方法とクラス活動を紹介している。ルーブリック評価と学習者の Can-do 自己評価を通し、その

取り組みの有効性を検証しており、第二外国語教育の現状を改善することを目的としている。Can-do の概念を初中級～中級レベルの第二外国語授業「日文（三）」に導入し、「課題遂行能力」の育成を目指すクラス活動を試みている。その評価方法には二種類あり、一つは言語知識を中心とする指定教材による筆記試験で、もう一つは Can-do クラス活動による Q&A 形式による口頭試験と台湾の年中行事というクラス活動についての口頭発表と台湾に関するテレビニュースという活動についてのスピーチである。また、発音・イントネーション、流暢さ、文法・文型、語彙・表現、内容構成を評価基準として選出し、評価シートを作成し、期末試験終了後、87名の履修者に Can-do 自己評価のアンケート調査も行われた。その結果、Can-do のクラス活動および評価方法を導入することによって、学習目的が明確になり、学習成果が高まったことを報告している。

以上の4つの文献から、評価方法に関する問題として、次の3つを指摘することができる。第1点は、学習評価の多様性を認め、試験によらない評価方法を積極的に授業に取り入れる必要があること。第2点は、ルーブリックや評価シートを用いることによって、自己評価および他者評価の結果から学習成果の可視化を可能にする必要があること。第3点は、100人以上の多人数クラスにおける学習成果の評価方法とその効果についてはこれまで言及されていないということである。

上記の先行研究を踏まえ、本稿で明らかにしたいことは、以下の2点である。

- (1) 言語の五技能を授業の目的としない概論的授業、とくに100人以上が履修する多人数クラスにおける学習成果の評価方法。
- (2) 学習者による相互評価および自己評価の結果を通して、これまで見えづらかった評価の問題点をまとめ、今後の授業を改善する際の基盤を提示すること。

### 3. 銘傳大学における学習成果の評価

学習成果の評価結果は、授業を見直したり、カリキュラムを改善したり、学習の向上に生かしたりできるといった利点があるため、以前にも増して重視されつつある。近年、台湾の大学評価も学校の環境や設備などより、学生の学習成果を重視する傾向がある。台湾教育部<sup>1</sup>の高等教育司<sup>2</sup>の主導により、2006年から2010年にかけて、台湾の大学を対象に評価する「第一週期系所評鑑」（各学科および院の1回目の評価）が行われた。この1回目の評価は「提供學生一個優質學習環境」を目的にし、学生に質の高い学習環境を提供しているかどうかについて調査し、大学への公的資金に関する認定を行った。一方、2012～2016年の「第二週期系所評鑑」（各学科および院の2回目の評価）では、「確保學生學習成效」を目的にし、いわゆる学生の学習効果に重点をおいた評価を実施した。要するに、台湾の高等教育機関の認定・評価にも、学習成果の評価が重視されつつあることが窺える。

上述した高等教育司の影響により、大学側は学習成果の評価を重視する傾向がある。以下、銘傳大学における学習成果の評価を例として述べる。銘傳大学の学習成果や教育成果を把握する方法は、学生による授業評価のアンケート、教員評価制度、シラバス、授業進度などが挙げられる。まず、学生による授業評価のアンケートでは、「老師能採取多元評量方式評比學生分數」という項目を設け、教師には複数の方法を取り、学習成果を多面的に評価することが義務付けられている。つぎに、教員評価制度では授業・教材の必須項目において、学生の学習成果を評価する方法には少なくとも3つ以上が必要であると明記する。そして、シラバスには、成績の評価方法をかならず明記すると決められている。最後に、授業進度では、学習成果を評価する方法として、「出缺席状況」、「隨堂測驗」、「期

---

<sup>1</sup> 日本の文部科学省に相当する。教育文化政策に関する業務全般を担当する省庁である。

<sup>2</sup> 台湾の高等教育を管理する機関で、教育部の下部組織の一つである。

中考」、「期末考」、「課堂參與」、「線上參與」、「作業」、「上機測驗」、「口語測驗」、「體能測驗」、「書面報告」、「口頭報告」、「心得報告」、「小組專題報告」、「小組討論紀錄」、「同儕互評/自評」、「分組解題」、「實驗紀錄」、「實驗操作」、「實習評量」、「實作成品」、「展演作品」、「學習歷程檔案」、「證照檢定」、「其他」の25種を挙げる。以上のことから、銘傳大学においても、学習成果の評価が重視されることが分かる。

#### 4. 銘傳大学「日本旅遊概論」における学習成果の評価

##### 4.1 「日本旅遊概論」の学習成果の可視化について

「日本旅遊概論」の教育目標は、日本への個人旅行の基礎知識の獲得と、個人旅行プランの作成と、日本語習得の動機づけという3つである。また、履修生の就職および卒業後のことを考えれば、日本を案内する添乗員になるための基礎知識の獲得、ワーキングホリデーに役に立ちそうな情報も教育目標に入れている。これらの目標達成のために、評価の基準を作成し、学習成果を検証し、成長プロセスの可視化を可能にする必要がある。

「日本旅遊概論」では、中間試験、期末試験、口頭発表、パワーポイントでのスライド作成、教室活動、口頭発表の相互評価および自己評価などの評価方法を採用している。授業は教員による講義と演習の形で行われる。講義では授業で設定しているテーマの概要について教員が説明する。演習では学生によるグループワークで、手作りの日本旅行プランを作成することによって、日本の観光名所の紹介を行っている。口頭発表は日本旅行プランをパワーポイントでプレゼンテーションするというものである。また、成果物として旅行用パンフレットを提出することになっている。履修生は110人であるため、口頭発表と教室活動はグループで行い、1グループの人数は4～5人で、110人を22～25組に分ける。なお、各組が担当する地域は抽選で決める。さらに、比較しやすいため、同じ地域をそれぞれ2組に担当してもらうことにする。ただし、各組の発表テー

マは各グループで決めることができる。例えば、「1A」と「1B」の2組はともに北海道の旅行プランを担当し、1Aは「冬戀雪世界【札幌、小樽、函館】」を、1Bは「六天五夜北海道冬季浪漫之旅」をテーマにし、プレゼンテーションすることが可能である。

本稿は105学年度一学期<sup>3</sup>の「日本旅遊概論」を対象にした。計25組のグループの発表テーマは、「1A 冬戀雪世界【札幌、小樽、函館】」、「1B 六天五夜北海道冬季浪漫之旅」、「2A 東北賞楓溫泉旅行」、「2B 東北自然の旅10日間」、「3A 甲信越之旅」、「3B 甲信越地方五天四夜旅遊計畫」、「4A 北陸小資賞櫻輕旅行」、「4B 北陸出遊團」、「5A 關東之旅～6天5夜～」、「5B 關東地區」、「6A 楓染近畿-京兵阪六日遊-」、「6B 東海地方四天三夜」、「7A 紅葉めぐり楓染近畿～京兵阪六日遊～」、「7B 近畿地方經典京阪神」、「8A 中国地方之旅 吃吃喝喝輕旅行」、「8B 中國地區九日遊」、「9A 五天四夜四國懷舊之旅」、「9B 四國六天五夜～神影少女道後溫泉・小豆島之魔女宅急便祕境」、「10A 穿越時空的奢華之旅」、「10B 九州吃貨之旅」、「11A 湛藍 | 夢之島 遇見心～沖繩」、「11B 沖繩4天3夜之旅」、「12 東の場所四日と三泊の旅」であった。図1は、「日本旅遊概論」の授業で、グループ発表に用いられた日本旅行プランのスライドの一部である。



<sup>3</sup> 2016年9月～1月を指している。

# DAY 1

13:00 關西機場 HARUKA(車程75min) 15:00 京都車站

使用超值套票「ICOCA & HARUKA」

- 購買地點：關西機場第一航廈
- 價錢：¥3600
- 內容：ICOCA(¥1500儲值金+ ¥500押金)  
HARUKA單程(關西機場→京都車站)  
可免費搭京都車站↔嵯峨嵐山站(嵯峨野線)  
單程原價~~¥2850~~ ¥1600



關西機場→京都車站(寄放行李)→嵐山→晚餐→京都塔→飯店

¥3600

近畿へ行くこう  
DAY 1

# DAY 5 心齋橋+道頓堀

心齋橋+道頓堀 採購時間

→ 心齋橋

流行服飾	
Star for the boys	變成潮流品牌- 強調方便又時尚式童裝
secretaria thesoso	時尚品牌女裝學院之風派
LOANERS FARM	流行品牌潮流之鋪的時尚店
CECIL K&B	日本少女運動品牌- 最推薦的件類
MINGNI	日本少女運動品牌- 最推薦的件類
almofed	日本平鋪內透氣薄型襪
大型百貨	
大丸百貨(DAIMARU)	共有三種- 丸物、本舖、南館- 以特種品類為主的百貨公司
東急 Hands	生活用品、可變雜貨、各式文具
心齋橋 PARCO	主打化妝品和流行服飾- 還有五層樓的 LOFT 文具店!
WEGO	日本著名的古著服飾連鎖店
特色伴手禮	
LE ROISSANT	廣牌電鍋- 牛軋糖包等名產



→ 道頓堀

生活用品、可變雜貨	
ドン・キホーテ (唐吉科德 激安の殿堂)	基本雜貨- 批發批發- 餅乾- 文具用品與電腦- 3C 配件或成合的雜貨- 全年營業- 24小時不打烊
TSUTAYA	有 6 層樓的書籍、CD、DVD
特色伴手禮	
グリコ 固力果糖果專賣店	海鮮等體力與的雜貨食品



カナハイのお店→大阪今昔生活館→道頓堀水上觀光船→晚餐→心齋橋,道頓堀

近畿へ行くこう  
DAY 5

# DAY 6

[梅田→関西空港 アクセス]  
新阪急ホテル (大阪)  
↓  
関西空港線 [大阪] バス(関西空港第2ターミナル行)  
↓  
関西空港第1ターミナル



搭乘  **JL815** 機票 NT\$ 11500(商務艙)

 **19:15** 大阪(關西) **3hr 25min** **21:40** 台北(桃園)

近畿へ行くこう  
DAY6

# DAY 6 中餐

13:00 ぐでたまかふえ (HEP FIVE)



餐廳：ぐでたまかふえ

飲料也很可愛！！

價位：  
¥ 500~ ¥ 600 (税抜)



HEP FIVE→中餐→回台灣

¥ 600

近畿へ行くこう

図 1 「6A 楓染近畿-京兵阪六日遊-」の日本旅行プランの一部

#### 4.2 「日本旅遊概論」の履修者による相互評価と自己評価

つぎに、105 学年度一学期の「日本旅遊概論」履修者の相互評価と自己評価にもとづき、日本語学習者の観点から、「日本旅遊概論」の学習成果の問題点をまとめてみたい。

履修者による相互評価と自己評価は、各グループの口頭発表後に書いてもらう。なお、学習成果の相互評価と自己評価はともに同じ評価シートを使用し、五段階評価と自由記述形式の2種類を併合したものである。表1は「日本旅遊概論」で使用した評価シートである。

表1 「日本旅遊概論」の評価シート

班級： \_\_\_\_\_ 学籍番号： \_\_\_\_\_ 名前： \_\_\_\_\_

グループ ( )

観点	項目	評価					コメント
		良い	やや良い	普通	やや劣る	劣る	
1.内容 (内容)	①テーマに沿った内容であった (與主題相符)	1	2	3	4	5	
	②面白かった (有趣)	1	2	3	4	5	
	③ためになった (有用)	1	2	3	4	5	
2.話し方 (説話方式)	①声は適切 (音量適中)	1	2	3	4	5	
	②しゃべる工夫あり (説話有魅力、有下功夫)	1	2	3	4	5	
	③スピードは適切であった (速度適中)	1	2	3	4	5	
3.PPT資料 (PPT資料)	①理解しやすかった (易懂)	1	2	3	4	5	
	②字の大きさは適切 (字體大小適中)	1	2	3	4	5	
	③図、写真などは見やすかった (圖、照片清晰)	1	2	3	4	5	
4.チームワーク (團隊精神)	①役割分担は適切であった (工作分配得當)	1	2	3	4	5	
	②発表の時間配分は適切であった (發表時間分配得當)	1	2	3	4	5	
	③コミュニケーションが取れた (小組成員溝通良好)	1	2	3	4	5	
5.その他 (其他)	良い点 (優點):  改良点 (缺點):						

以下、履修生による口頭発表の相互評価と自己評価を中心に検討することで、「日本旅遊概論」の学習成果の可視化を試みる。

##### 4.2.1 「日本旅遊概論」の履修者による相互評価

口頭発表のグループが多かったため、相互評価は一人の履修生が

23組のなかから5組をピックアップし、それらを対象に評価するという形で行った。したがって、計550枚の評価シートを回収した。

まず、五段階評価の調査結果を見てみる。五段階評価とした質問は1-①～4-③の12問であり、質問の内容は「1.内容」、「2.話し方」、「3.PPT資料」、「4.チームワーク」、「5.その他」の5つの観点からなっている。1.～4.の項目はさらに3問ずつ問いが細分化されている。回答は「良い」、「やや良い」、「普通」、「やや劣る」、「劣る」の五段階にわけた。ただし、「5.その他」については、前述の五段階の回答方法ではなく、口頭発表の良い点および改良点について自由に記述できるようになっている。1.～4.の結果は、それぞれ「高評価・普通」と「低評価」の二グループに分け、表2と表3の通りである。

表2 相互評価の五段階評価の調査結果（高評価・普通）

観点	項目	良い	やや良い	普通	計
1.内容	①テーマに沿った内容であった (與主題相符)	340人 61.8%	180人 32.7%	30人 5.5%	550人 100%
	②面白かった (有趣)	240人 43.6%	185人 33.6%	100人 18.2%	525人 95.4%
	③ためになった (有用)	250人 45.5%	205人 37.3%	90人 16.4%	545人 99.2%
2.話し方	①声は適切 (音量適中)	285人 51.8%	175人 31.8%	80人 14.5%	540人 98.1%
	②しゃべる工夫あり (説話有魅力、有下工夫)	165人 30.0%	165人 30.0%	180人 32.7%	510人 92.7%
	③スピードは適切であった (速度適中)	195人 35.5%	220人 40.0%	110人 20.0%	525人 95.5%
3.PPT資料	①理解しやすかった (易懂)	240人 43.6%	240人 43.6%	65人 11.8%	545人 99.0%
	②字の大きさは適切 (字體大小適中)	260人 47.3%	170人 30.9%	100人 18.2%	530人 96.4%
	③図、写真などは見やすかった (圖、照片清晰)	320人 58.2%	160人 29.1%	60人 10.9%	540人 98.2%
4.チームワーク	①役割分担は適切であった (工作分配得當)	275人 50.0%	205人 37.3%	70人 12.7%	550人 100%
	②発表の時間配分は適切であった (發表時間分配得當)	285人 51.8%	120人 21.8%	95人 17.3%	508人 90.9%

	③コミュニケーションが取れた (小組成員溝通良好)	290人 52.7%	165人 30.0%	85人 15.5%	540人 98.2%
--	------------------------------	---------------	---------------	--------------	---------------

表3 相互評価の五段階評価の調査結果 (低評価)

観点	項目	やや劣る	劣る	計
1.内容	①テーマに沿った内容であった (與主題相符)	0人 0%	0人 0%	0人 0%
	②面白かった (有趣)	25人 4.5%	0人 0%	25人 4.5%
	③ためになった (有用)	5人 0.9%	0人 0%	5人 0.9%
2.話し方	①声は適切 (音量適中)	10人 1.8%	0人 0%	10人 1.8%
	②しゃべる工夫あり (説話有魅力、有下工夫)	35人 6.4%	5人 0.9%	40人 7.3%
	③スピードは適切であった (速度適中)	25人 4.5%	0人 0%	25人 4.5%
3.PPT資料	①理解しやすかった (易懂)	5人 0.9%	0人 0%	5人 0.9%
	②字の大きさは適切 (字體大小適中)	20人 3.6%	0人 0%	20人 3.6%
	③図、写真などは見やすかった (圖、照片清晰)	10人 1.8%	0人 0%	10人 1.8%
4.チームワーク	①役割分担は適切であった (工作分配得當)	0人 0%	0人 0%	0人 0%
	②発表の時間配分は適切であった (發表時間分配得當)	45人 8.2%	5人 0.9%	50人 9.1%
	③コミュニケーションが取れた (小組成員溝通良好)	10人 1.8%	0人 0%	10人 1.8%

表2から、「1.内容」、「2.話し方」、「3.PPT資料」、「4.チームワーク」、「5.その他」の①～③の「良い」と「やや良い」の二項目を合わせると、それぞれ94.5%、77.2%、82.8%、83.6%、60.0%、75.5%、87.2%、78.2%、87.3%、87.3%、73.6%、82.7%となった。一方、表3の「1.内容」～「5.その他」の①～③の「やや劣る」と「劣る」の二項目の合計は、0%、4.5%、0.9%、1.8%、7.3%、4.5%、0.9%、3.6%、1.8%、0%、9.1%、1.8%であった。ここから、「日本旅遊概論」授業の口頭発表に関して履修者は、内容、話し方、PPT資料、

チームワーク、その他の項目において、60.0%~94.5%と高く支持していることがわかった。また、同調査では「普通」を除き、口頭発表に不満を感じる履修者は0%~9.1%と少数であることも表3からうかがえる。ただ、注意すべきは「しゃべる工夫あり」と「発表の時間配分は適切であった」は一割にはなっていないが、「やや劣る」と「劣る」と感じる履修生が他の項目より若干高く見られることである。

次に、自由記述式のアンケート調査の結果について考察したい。学習者への自由記述形式のアンケートには、「1.内容」~「5.その他」の計5つの観点がある。以下、この5つの観点の調査結果に関して順を追ってまとめたい。

まず、観点1は「内容」について尋ねたものであり、具体的に「テーマに沿った内容であった」、「面白かった」、「ためになった」の3項目が含まれる。履修生からは、「資料が多く、内容が豊富である」、「テーマに合った内容で、旅行の参考になる」、「交通手段の説明をもっと詳細に」、「珍スポットの紹介がほしい」、「食べ物ばかりの紹介になってしまった」といった内容の回答が多く見られた。例えば、「資料很多,内容很豊富」、「與主題相符,可做為旅遊行程參考」、「交通方式的説明應該更詳細」、「希望介紹特別的景點」、「幾乎都是吃的行程」といった回答例が挙げられる。一方、「内容不夠豊富,大多很容易查到的資料(内容が豊富ではない。しかも簡単に調べられる資料ばかりである)」や「有點無聊(ちょっとつまらない)」のようなマイナス評価も見られた。

次に、観点2は「話し方」について尋ねたものであり、具体的に「声は適切」、「しゃべる工夫あり」、「スピードは適切であった」の3項目が含まれる。履修生からは、「声の抑揚変化が弱い」、「ちょっと速かった」、「聞き手の目を見なかった」、「話にめりはりがなく、だらだらと説明が続いた」、「BGMの音楽の音量が大きく、発表者の話が聞き取れない」といった内容の回答が多く見られた。例えば、「語調沒什麼變化」、「速度有點快」、「報告時不看聽眾」、「說話沒特

色，只是一直說明”、“背景音樂太大聲，聽不清楚發表者的聲音”といった回答例が挙げられる。また、「很幽默，能吸引台下觀眾注意（大変ユーモアがあって、聴衆の注目を集めることができた）」や「説話有點結巴，咬字有時含糊不清（やや吃音、ときどき嚙んでしまう）」との回答もあった。

そして、観点3は「PPT資料」について尋ねたものであり、具体的に「理解しやすかった」、「字の大きさは適切」、「図、写真などは見やすかった」の三項目が含まれる。履修生からは、「パワーポイントの字が小さかった」、「写真を増やしたほしい」、「文字ばかりのパワーポイントもあった」、「スライドの配色の工夫が必要」といった回答が多く見られた。例えば、“PPT的字太小”、“可多一點照片”、“有些投影片都是字”、“投影片的配色需要下功夫”などがその回答例として挙げられる。また、「投影片很普通，不夠吸引人（PPTの内容が普通で面白くない）」や「投影片的圖片和照片重疊到字（PPTの図や写真が字に重なる）」といったような回答もあった。

また、観点4は「チームワーク」について尋ねたものであり、具体的に「役割分担は適切であった」、「発表の時間配分は適切であった」、「コミュニケーションが取れた」の三項目が含まれる。履修生からは、「発表の時間をうまくコントロールできなかった」、「一人芝居になってしまった」、「役割分担は適切ではなかった」、「チームワークが良い」、「コミュニケーションがうまく取れなかった」といった内容の回答が多く見られた。例えば、“發表時間沒控制好”、“只有一個組員在發表”、“工作分配不平均”、“團隊精神良好”、“小組溝通上不是很好”といった回答がその例として挙げられる。

さらに、観点5は「その他」について尋ねたものであり、具体的に「良い点」と「改良点」の二項目が含まれる。履修生からは、「旅行プランは充実していた」、「すべてのスケジュールに交通時間の説明があって、旅行に役立つ」、「発表の後半は早口だった」、「旅費の説明がなかった」、「旅行に関する情報をバランスよく紹介してほしい」といった内容の回答が多く見られた。例えば、“旅遊行程充實”、

“每個行程都有標交通時間，有利旅遊時間掌控”、“發表的前半講太快”、“沒有說明旅費”、“希望能平均介紹旅遊情報”といった回答がその例として挙げられる。

#### 4.2.2 「日本旅遊概論」の履修者による自己評価

自己評価は履修生が自分の組を対象に評価するため、評価シートの回収枚数は110枚となった。まず、五段階評価の調査結果を見てみたい。五段階評価の質問および調査方法は相互評価と同様で、1.～4.の結果は、それぞれ「高評価・普通」と「低評価」の二グループに分け、表4と表5の通りである。

表4 自己評価の五段階評価の調査結果（高評価・普通）

観点	項目	良い	やや良い	普通	計
1.内容	①テーマに沿った内容であった (與主題相符)	76人 69.1%	28人 25.5%	6人 5.5%	110人 100%
	②面白かった (有趣)	46人 41.8%	36人 32.7%	24人 21.8%	106人 96.3%
	③ためになった (有用)	62人 56.4%	38人 34.5%	10人 9.1%	110人 100%
2.話し方	①声は適切 (音量適中)	58人 52.7%	36人 32.7%	16人 14.5%	110人 99.9%
	②しゃべる工夫あり (説話有魅力、有下工夫)	26人 23.6%	44人 40.0%	32人 29.1%	102人 92.7%
	③スピードは適切であった (速度適中)	28人 25.5%	44人 40.0%	24人 21.8%	96人 87.3%
3.PPT資料	①理解しやすかった (易懂)	52人 47.3%	42人 38.2%	16人 14.5%	110人 100%
	②字の大きさは適切 (字體大小適中)	64人 58.2%	40人 36.4%	6人 5.5%	110人 100%
	③図、写真などは見やすかった (圖、照片清晰)	76人 69.1%	26人 23.6%	8人 7.3%	110人 100%
4.チームワーク	①役割分担は適切であった (工作分配得當)	56人 50.9%	36人 32.7%	12人 10.9%	104人 94.5%
	②発表の時間配分は適切であった (發表時間分配得當)	44人 40.0%	34人 30.9%	20人 18.2%	98人 89.1%

	③コミュニケーションが取れた (小組成員沟通良好)	54人 49.1%	26人 23.6%	28人 25.5%	108人 98.2%
--	------------------------------	--------------	--------------	--------------	---------------

表5 自己評価の五段階評価の調査結果(低評価)

観点	項目	やや劣る	劣る	計
1.内容	①テーマに沿った内容であった (與主題相符)	0人 0%	0人 0%	0人 0%
	②面白かった (有趣)	4人 3.6%	0人 0%	4人 3.6%
	③ためになった (有用)	0人 0%	0人 0%	0人 0%
2.話し方	①声は適切 (音量適中)	0人 0%	0人 0%	0人 0%
	②しゃべる工夫あり (説話有魅力、有下工夫)	8人 7.3%	0人 0%	8人 7.3%
	③スピードは適切であった (速度適中)	14人 12.7%	0人 0%	14人 12.7%
3.PPT資料	①理解しやすかった (易懂)	0人 0%	0人 0%	0人 0%
	②字の大きさは適切 (字體大小適中)	0人 0%	0人 0%	0人 0%
	③図、写真などは見やすかった (圖、照片清晰)	0人 0%	0人 0%	0人 0%
4.チームワーク	①役割分担は適切であった (工作分配得當)	6人 5.5%	0人 0%	6人 5.5%
	②発表の時間配分は適切であった (發表時間分配得當)	8人 7.3%	4人 3.6%	12人 10.9%
	③コミュニケーションが取れた (小組成員沟通良好)	2人 1.8%	0人 0%	2人 1.8%

表4から、「1.内容」、「2.話し方」、「3.PPT資料」、「4.チームワーク」、「5.その他」の①～③の「良い」と「やや良い」の二項目を合わせると、それぞれ94.6%、74.5%、90.9%、85.4%、63.6%、65.5%、85.5%、94.6%、92.7%、83.6%、70.9%、72.7%となった。一方、表5から、「1.内容」～「5.その他」の①～③の「やや劣る」と「劣る」の二項目の合計は、0%、3.6%、0%、0%、7.3%、12.7%、0%、0%、0%、5.5%、10.9%、1.8%であった。ここから、「日本旅遊概

論」授業の口頭発表に関して履修者は、内容、話し方、PPT資料、チームワーク、その他の項目において、63.6%～94.6%と高く支持していることがわかった。また、同調査では「普通」を除き、口頭発表に不満を感じる履修者は0%～12.7%と少数であることも表3からうかがえる。ただ、注意すべきは「スピードは適切であった」と「発表の時間配分は適切であった」は一割を超えており、「やや劣る」と「劣る」と感じる履修生が他の項目より高く見られることである。さらに、「面白かった」と「しゃべる工夫あり」と「スピードは適切であった」と「コミュニケーションが取れた」の「普通」はともに二割を超えることも注目したい。

次に、自由記述式のアンケート調査の結果について考察したい。学習者への自由記述形式のアンケートは「1.内容」～「5.その他」の計5つの観点で成り立つ。以下、この5つの観点を調査結果に関して順を追ってまとめたい。

まず、観点1は「内容」について尋ねたものであり、具体的に「テーマに沿った内容であった」、「面白かった」、「ためになった」の3項目が含まれる。履修生からは、「内容が豊富で、おもしろくて、役に立つ」、「テーマに合った内容で、スケジュールはよくできて、旅行の参考になる」、「宿泊の情報説明がもう少し詳しく紹介できたら」、「内容がちょっと長すぎて、少し減らすことができた」といった内容の回答が多く見られた。例えば、“内容很豊富，有趣，有用”、“很符合主题，行程排得很棒，很值得参考”、“住宿方面可再多一点资讯”、“内容有点太冗长，可以缩减一点”といった回答例が挙げられる。「内容はまあまあだった」のようなコメントがあったが、マイナス評価は見られなかった。

次に、観点2は「話し方」について尋ねたものであり、具体的に「声は適切」、「しゃべる工夫あり」、「スピードは適切であった」の3項目が含まれる。履修生からは、「緊張しすぎて、ちょっと早口になってしまった」、「準備不足だった」、「はやく喋ってしまった」、「時間の配分はうまくできず、発表の後半を急いでしまった」、「一部の

発表者はちょっと吃音になってしまった」といった内容の回答が多く見られた。例えば、“太緊張了，講的有點急”、“報告的時候排練不夠”、“講太快”、“時間分配不平均，後面很趕”、“有些人講話有點結巴”といった回答例が挙げられる。

そして、観点3は「PPT資料」について尋ねたものであり、具体的に「理解しやすかった」、「字の大きさは適切」、「図、写真などは見やすかった」の三項目が含まれる。履修生からは、「パワーポイントの字がちょっと多かった」、「パワーポイントの写真がきれいで見やすかった」、「スライドの作成は丁寧で、写真と文字の両方で細心の注意を払っていた」といった回答が多く見られた。例えば、“PPT的字稍微有點多”、“PPT圖片清楚明瞭”、“投影片製作用心，圖文兼顧”などがその回答例として挙げられる。

また、観点4は「チームワーク」について尋ねたものであり、具体的に「役割分担は適切であった」、「発表の時間配分は適切であった」、「コミュニケーションが取れた」の三項目が含まれる。履修生からは、「役割分担は適切で、コミュニケーションもよく取れた」、「チームワークはとても良い」、「個人が担当している発表内容をちゃんとやり遂げて、発表の内容を適切に割り当てられた」といった内容の回答が多く見られた。例えば、“工作分配得當，溝通也很良好”、“團隊合作非常好”、“每個人都有工作，分配得宜”といった回答がその例として挙げられる。一方、「小組成員間工作分配和溝通沒有做好（役割分担とコミュニケーションはうまくできなかった）」や「工作分配比較沒有分配的很好（役割分担は適切ではなかった）」や「發表時間沒控制好，給其他組員添麻煩（発表時間をうまくコントロールできなかったせいで、ほかのメンバーに迷惑をかけた）」のようなマイナス評価も少なくない。

さらに、観点5は「その他」について尋ねたものであり、具体的に「良い点」と「改良点」の二項目が含まれる。履修生からは、「少し緊張したせいで、思うように話せなかった」、「人前で話をするテクニックの習得が必要だ」、「時間配分通りのペースを守る練習が必

要だ」、「発表の資料は豊富で、旅行のプランは面白かった」、「発表するときの声量は少し大きくする必要がある」といった内容の回答が多く見られた。例えば、“発表有點緊張，表現有點不順”、“口説有待加強”、“需要練習發表時間分配與控制”、“報告資料豐富，旅程有趣”、“報告聲音再大聲一點”といった回答がその例として挙げられる。

#### 4.3 相互評価と自己評価の比較

4.2 の学習成果の評価をもとに、五段階評価と自由記述形式の二種類の調査から、相互評価と自己評価の違いを比較した結果、次のようなことが確認された。

- (1) 五段階評価では、「良い」と「やや良い」の二項目を合わせると、相互評価と自己評価の間で差が見られるのは、「スピードは適切であった」と「字の大きさは適切」と「コミュニケーションが取れた」の三項目であった。一方、相互評価も自己評価も「劣る」と感じた履修者は非常に少ないが、相互評価の「やや劣る」は自己評価より多かった。また、「やや劣る」において、「スピードは適切であった」の相互評価は 4.5% に対し、自己評価は 12.7% であった。
- (2) 「内容」と「話し方」と「PPT 資料」と「チームワーク」において、口頭発表の相互評価と自己評価は、ともに履修者は高く支持している。
- (3) 自由記述形式の「1. 内容」では、相互評価も自己評価も「資料が多かった」、「内容が豊富である」、「テーマに合った内容で、旅行の参考になる」といった内容の回答が多く見られた。相互評価ではマイナス評価が見られたが、自己評価ではマイナス評価は見られなかった。「2. 話し方」では、相互評価と自己評価は、ともに「早口になってしまった」や「吃音になってしまった」の回答が多く見られた。「3. PPT 資料」では、相互評価と自己評価は、ともに「パワーポイントの字が小さかった」の回答が多く見られた。

「4. チームワーク」では、相互評価は「発表時間をうまくコントロールできなかった」、「役割分担は適切ではなかった」、「コミュニケーションがうまく取れなかった」のようなマイナス評価が多かったが、自己評価は「役割分担は適切で、コミュニケーションもよく取れた」や「チームワークはとても良い」といったプラス評価もあれば、「役割分担とコミュニケーションはうまくできなかった」や「役割分担は適切ではなかった」のようなマイナス評価もあった。「5. その他」では、相互評価も自己評価も肯定的コメントが多かった。また、相互評価は「発表の後半は早口だった」、自己評価は「少し緊張したせいで、思うように話せなかった」のような反省もあった。

## 5. おわりに

大学が行う教育活動に対して、その教育成果や、学生が身に付けた学習成果を把握し検証することへの要請は近年増加している。本稿は「日本旅遊概論」を例に、概論的授業とくに100人以上の多人数クラスにおける学習成果の評価について、学習者による相互評価および自己評価の結果を考察することで、従来見えてこなかった評価の問題点をまとめた。これらの問題点や口頭発表の相互評価の調査結果を検討することで、授業をデザインする際によりよい指針を構築することができるであろう。今後は、多くの方々にパフォーマンス評価を導入した授業を実践してもらうことで、その有効性を確認するとともに、更なる改善を図りたい。

付記 本稿は、銘傳大学 2018 国際學術研討會「教育國際化潮流趨勢 下台灣日語教育之反思—策略與實踐—」（2018年3月16日、台灣桃園・銘傳大学桃園校區綜合教學大樓）における口頭発表をもとに、加筆・修正を加えたものである。席上および発表の前後に、多くの先生方より貴重な御指摘・御教示を賜った。ここに記して感謝申し上げる。また、貴重なご助言を頂いた査読委員の先生方

に厚く御礼申し上げます。

## 参考文献

### 日本語文献

- 石田敏子（2008）「学生による授業評価をめぐって」『日本語教育連絡会議論文集』20 日本語教育連絡会議事務局 pp. 1-11
- 井上奈穂（2013）「授業者による学習評価の論理—大津和子の実践「世界の貿易」の分析から—」『鳴門教育大学研究紀要』28 鳴門 鳴門教育大学 pp. 80-90
- 岩田睦巳（2014）「思考力・判断力・表現力にかかわる社会科の学習評価～パフォーマンス評価の導入による教師の力量形成の可能性～」『岐阜大学教育学部 教師教育研究』10 岐阜 岐阜大学 pp. 237-248
- 遠藤織枝（2006）「第5章 どう評価するか」『日本語教育を学ぶ その歴史から現場まで』東京 三修社 pp. 107-129
- 大塚雄作・三尾忠男（1999）「第14章 毎回授業評価調査の試みとその活用法：教授・学習評価支援システムの高度利用の可能性」『メディア教育開発センター研究報告』7 千葉 メディア教育開発センター pp. 181-188
- 許均瑞（2014）「学習者の自他評価から具現化される学習効果への気づき—「新聞日本語」の授業デザインとルーブリックの導入」『台湾日本語文学期』36 台北 台湾日本語文學會 pp. 301-326
- 黄鈺涵（2015）「Can-do を取り入れた第二外国語授業のクラス活動と評価方法—学習者の自己評価に関する考察」『台湾日語教育學報』25 台北 台湾日語教育學會 pp. 58-85
- 国際交流基金（2011）『国際交流基金 日本語教授法シリーズ 12 学習を評価する』東京 ひつじ書房
- 近藤ブラウン妃美（2012）『日本語教師のための評価入門』東京 くろしお出版

- 陳姿菁 (2016) 「自己評価を用いた会話活動の可能性—第二外国語としての日本語授業を例に一」『台灣日本語文學報』40 台北 台灣日本語文學會 pp. 257-278
- 林玉惠 (2017) 「学習者中心の授業運営の試み—多人数クラスの現状と問題点を中心に—」『淡江日本論叢』35 淡江 淡江大学 pp. 81-104
- 林玉惠 (2018) 「銘傳大学「日本旅遊概論」における学習成果の評価—学習者による相互評価から見えるもの—」『銘傳大學 2018 國際學術研討會「教育國際化潮流趨勢下台灣日語教育之反思—策略與實踐—」』桃園 銘傳大学應用日語学系 pp. 149-156

#### 中国語文献

- 王新民 (2010) 「學習評價的類型及其特徵分析」『內江師範學院學報』25 卷 12 期 四川 內江師範學院 pp. 77-80 (原文は簡体字)
- 古莹莹、周益明 (2010) 「以“學習性評價”提高化學課堂教學有效性的研究與思考」『南京曉莊學院學報』26 卷 3 期 南京 南京曉莊學院 pp. 92-96 (原文は簡体字)
- 彭森明 (2010) 『大學生學習成果評量：理論，實務與應用』台北 高教評鑑中心基金會
- 鄭定洲、歐輔仁、林政憲 (2010) 「學習效果之動態評價與學習素質差生界定」『中華科技大學學報』第 45 期 台北 中華科技大學出版組 pp. 127-142

※2018 年 4 月 30 日受領 2018 年 6 月 30 日審査通過

# 日中翻譯對照研究

## —以斷捨離之書籍的翻譯問題為例—

蔣千苓

義守大學應用日語學系助理教授

### 摘要

生活日益富裕，人們對物品的看法與處理方式也和過去大相逕庭，不再隨意囤積物品。不管是日本還是台灣，紛紛出版了相當多談論斷捨離的書籍，由專家達人教導大家如何動手整理家中形形色色的物品。而其中又以日譯中的作品為多。然而儘管此類日譯中的書籍相當常見，卻極少被討論到翻譯之相關問題。

本研究藉由書中對整理步驟、收納技巧、心情點滴等之陳述進行剖析，將其分為「難譯詞」、「收納指示表現」、「整理整頓之擬聲擬態詞」，以及「心情感受」四大類型，檢視在斷捨離之相關書籍中，中日文在表達形式上的差異，並探討譯者在翻譯過程中以何種策略來解決問題。

本研究同時希望藉由多本市售書籍之實例分析及探討，對今後有關物品整理整頓描寫之翻譯指導提供有效且具體的參考策略，對日後翻譯教學有所助益。

關鍵字：斷捨離、難譯詞、收納指示表現、整理整頓之擬聲擬態詞、心情感受

# **A Comparative Study of Translation Between Japanese and Chinese: Examples of Book Translations on Decluttering**

Ling, Chiang Chien

Assistant Professor, I-Shou University, Taiwan

## **Abstract**

As society is becoming more prosperous, people view and deal with goods in a very different way to the past; they no longer hoard items at will. In both Japan and Taiwan, there have been many books published about decluttering with experts teaching people how to organize everything in the home. Of these, there are many works in Chinese translated from Japanese. However, although these translations from Japanese into Chinese are quite common, the problems surrounding translations have rarely been discussed.

The present study analyzes descriptions of decluttering steps, storage techniques, and emotions in these books, classifying them into four categories: “hard to translate text,” “storage performance,” “onomatopoeia,” and “hard to translate text.” The aim is to examine the differences in the forms of expression between Chinese and Japanese in books related to decluttering, and to discuss what strategies translators use to solve problems during the translation process.

The present study will carry out an analysis and discussion based on commercially available books, providing an effective and specific reference strategy for the translation of text on organizing and decluttering; this will contribute to the future teaching of translation.

**Keywords:** decluttering, hard to translate text, storage performance, onomatopoeia for organizing and decluttering, emotions and feelings

# 日中翻訳の対照研究

## —断捨離の書籍における翻訳問題を中心に—

蒋千苓

義守大学応用日本語学科助理教授

### 要旨

生活が豊かになるにつれて、モノに対する見方や扱いは昔とだいぶ異なっており、モノを詰め込まないようにしている。日本にしても台湾にしても断捨離に関する本がたくさん出版されている。家中のモノをどのようにしてきれいに片付けられるか、整理収納の専門家は様々なアドバイスをしてくれる。その中で、特に日本語からの翻訳書が多く見られるが、翻訳研究では、断捨離に関する作品の翻訳問題点について言及された先行研究は数少ないようである。

本稿は市販の書籍を用い、整理収納のステップ、片付け術や気持ち表現などについての描写を分析し、「難訳語」、「収納の指示表現」、「整理収納のオノマトペ」、「気持ち表現」との四大別に分けてみる。日中両言語の描写方法を比較対照し、その異同を見ていく。そして、翻訳者はどのような対策をとっているのかをも明らかにしたい。

本研究は市販された書籍の翻訳実例を用い、整理収納における翻訳指導に何かの手がかりや参考になる材料を提供できたらと考える。

キーワード：断捨離、難訳語、収納の指示表現、整理収納のオノマトペ、気持ち表現

# 日中翻譯對照研究

## —以斷捨離之書籍的翻譯問題為例—

蔣千苓

義守大學應用日語學系助理教授

### 1. 研究動機與目的

隨著時代變遷，人們對「富裕」一詞有了新的詮釋，過去東西越多的人越富有，然而現在追求精而美，東西越少，反而代表生活品質越好。因此，對物品的看法與處理方式也和過去大相逕庭，逐步改變生活型態，了解什麼東西是必要的，什麼是不必要的，不再讓物質成了網綁自我的束縛。而台灣的流行文化由於歷史及地域上的關係，一直以來深受日本的影響，在生活美學上更常借鏡日本，反應在日常可愛精緻的包裝以及居家設計上。

「斷捨離」是日本近年來新興的一股理念，教導人丟掉對物品的執著。隨著這股「斷捨離」潮流的興起，坊間紛紛出版整理收納之相關書籍，教導大家將家中不用之物品清除，並提供如何整理物品的技巧。儘管與此相關的生活類翻譯書籍相當常見，但卻少有研究深入去探討生活類書籍的書寫特色及翻譯要訣。

日本的雜誌或書籍（例如：主婦の友社 2009、2012）雖然有針對室內設計及收納用語做整理，但也僅限於日文的解釋，日中對譯的用語集及相關之研究則付之闕如。在筆者教授有關斷捨離的翻譯篇章中，常見學生忽略文本的特色，不知文本類型常用詞彙，無法轉換成較自然的中文。因此，本文試著將市售的斷捨離相關之書籍的內容分為「難譯詞」、「收納指示表現」、「整理整頓之擬聲擬態詞」，以及「心情感受」四大類型，檢視中日文在表達形式上的差異，並探討譯者在翻譯過程中以何種策略來解決問題，以及此類型翻譯上常見的困難點。

### 2. 文獻探討

陳(2016)中提及「翻譯策略須考慮三個面向，(1)文本類型，(2)翻譯目的，(3)翻譯方法…若缺少翻譯策略，容易淪為即興譯法，以

致語言或文體前後不一致」(p. 41)。亦即，在進行翻譯時，除了要了解原文的意思之外，對修辭及篇章也必須有一定的認知，才能翻譯出適切的譯文。因此，本研究以下就斷捨離文本，亦即整理收納的書籍類型先行加以探討。

## 2.1 文本類型

德國出身的萊斯(Reiss)為功能翻譯學派的開創者，她認為翻譯時應先確認文本的類型和功能再來決定翻譯方法。伍(2008)整理了Reiss提出的三種文本類型，其整理如下：

〈表一〉萊斯的文本類型

文本類型	文本種類
表達型	散文、傳記、通俗小說、文學作品、詩歌
信息型	新聞、商務信函、操作指南、專利說明、教育著作、論文、報告、專業文獻
呼喚型	廣告、宣傳、布道

伍(2008:58)

表達類文本(expressive text)：主要為創作型作品，強調語言本身的美感，供作者自我突顯，譯者應以作者為中心，要譯得精密細膩；而另一方面信息型文本(informative text)，重在陳述事實、知識，不注重美學的操作，傳遞內容焦點。而最後一項呼喚型文本(operative text)，則以讀者和效果為導向，語言重心落在讀者身上，發揮召喚的力量，譯文必須吸引人，訴求明確。

而本研究所欲探討的整理收納的書籍，在萊思的分類中，在描述上屬於表達型，傳達自己對斷捨離的理念及想法，著重作者個人文藝效果；但在陳述收納過程時又包含了信息型文本的特性，指導讀者收納的相關知識、技巧；然而在章節標題處卻又多少帶有呼喚型的效果，希望引發讀者的共鳴，可說是屬於混合型之文本。整體來說，它的敘事除了受到美學的操作外，還受到真實生活的限制。

此外，本研究所分析之整理收納的書籍，其描寫方式較偏向非正式散文，用語淺白且簡潔易懂，予人輕鬆自在的感覺。廖（2017）中指出「散文具有三種特性：主題廣泛、結構富彈性、語言風格獨特。」散文的主題可簡單可複雜，可表達各類多元的主題。這種非正式散文的文字往往充滿個人色彩，文中修辭或語氣等都可看出作家的個人風格。

綜上所述，本研究的分析文本在翻譯上必須以淺白易懂為原則，在信息處理上不能添加過多譯者自身的文字風格，要精確明白，同時在敘事時也要引發讀者的共鳴，好實踐斷捨離的生活。

## 2.2 常見之翻譯法

翻譯的方法除了大家熟知的直譯、意譯、增譯、減譯、補充、省略、說明外，陳(2016)指出翻譯的方法還有下列幾種常見類型：

- (1)轉換：詞類轉換，又或者是單複數的變化、疊字等的翻譯都涉及到轉換手法。
- (2)套譯：以對等之諺語等來翻譯。
- (3)分譯：把原文中的詞或短語譯成一個句子，或把一個句子譯成兩個或兩個以上的句子。
- (4)語序改變：語序調整或變動，改變原文句構，求更妥貼譯出原文之意涵。
- (5)外語內借：將原字借用，直接借給譯文使用，如「日本女優」等。

## 2.3 斷捨離之含意

「斷捨離」這個概念是由日本人山下英子(やましたひでこ)率先提倡，她從2000年起開始以「雜物管理諮詢師」(clutter consultant)的身份在日本各地展開活動，於2009年出版一系列有關斷捨離之書籍，並在隔年2010年被選為日本的年度流行語。

山下英子所提出的生活理念「斷捨離」，在山下(2009)中提及是源自於印度瑜伽中的斷行、捨行、離行，也就是要人們切斷欲望、捨棄執著，學會放下，自在生活。山下對她所倡導的「斷捨離」三字在中譯本中做如下的解釋：

(前略)一言以蔽之，斷捨離就是透過整理物品了解自己，整理心中的混沌，讓人生舒適的行動技術。換句話說，就是利用收拾家裡的雜物來整理內心的廢物，讓人生轉而開心的方法。

總而言之，就是經由整理從「看得見的世界」走向「看不見的世界」。為此，各位要採取的行動就是

「斷」＝斷絕不需要的東西

「捨」＝捨去多餘的廢物

而不斷重複「斷」和「捨」到最後，得到的狀態就是

「離」＝脫離對物品的執著。 (山下 2011 p. 8)

比起一般常講的整理或收納，「斷捨離」一詞給人的感覺更近似一種修行。山下(2016)認為斷捨離不只是一種收納術，它其實是一套思考法，教你判斷需要與不要的練習，以脫離對物的執著，並藉由這個過程來正視自我。她認為斷捨離的主角不是物品，而是自己，考慮的是「我，現在，要不要用」，將此做為判斷的準則。也因此，斷捨離又被稱之為「人生整理術」。而她所提倡的斷捨離和一般的整理收納的不同之處，山下(2011)整理如〈表二〉：

〈表二〉斷捨離和整理、收納術的不同

	斷捨離	整理收納
目的	代謝、替換(主動)	保管、維持(被動)
主角	自己	物品
焦點	與自己的關聯性	物品 or 自己 or 送東西來的對象
中心思想	感性 適宜 需要、恰當、舒適	物質 浪費 能用 or 不能用
時間	現在	過去 未來
思考模式	選擇、決斷	迴避

手續	少	多
技術	不需要	需要
收納容器	不需要	需要

(資料來源:山下英子(2011)《斷捨離》第30頁)

## 2.4 日本生活美學對台灣的影響

台灣很擅長融合中國、日本、西方等元素，將之交融在一起。因此近年來也跟上了這股簡約風，開始喊出斷捨離的口號，認同「少即是多」的概念，不再如上一代盲目的堆疊物品，將家中空間填得滿滿。

簡樸美在日本的美學中佔有相當的份量，探討日本美學時，大家耳熟能詳的便是「侘び寂び」(wabi-sabi)或「幽玄」，在在強調極簡和缺憾之美。枡野(2012)認為禪宗美學對日本藝術亦有極大的影響。他設計中的禪之美主要有簡素、自然、幽玄、靜寂等，提醒著大眾要在自然和人的關係裏中取得平衡，他同時也強調在美學中留白的重要性。

台灣旅客常常造訪的日本寺廟，也隨處可見以「樸實」為主調，加上不浮誇的裝飾來突顯寺廟本身的美。還有台灣人很愛逛的無印良品(MUJI)，也是標榜設計簡樸、省略多餘的裝飾。增田(2017)表示「大家對MUJI的印象就是簡約、自然…MUJI的商品因為簡約且合理，它具備在海外不論面對何種環境都能迎合對方的空白的力量，這也可能是MUJI在全世界得到支持的原因」。簡而言之，MUJI追求的簡約，成為產品最大的賣點。而市面上也販售多本與MUJI相關的收納整理術之書籍，例如梶ヶ谷(2016)、本多(2014)等等。

## 3. 研究範圍

本研究從市面上販售之相關書籍中選出〈表三〉五本中日文版。本研究選擇此五本書籍的原因，一是此五本書皆以非正是散文體的方式描述，且收納者除了陳述自身在斷捨離過程中的心情外，同時也教

導讀者收納整理的方法。二是它們所含蓋的敘事元素較為類似，在分析上可避免差異過大而造成無法歸納的問題。

〈表三〉日文書名及中譯本

	日文版作者及書名	中譯本書名
1	堀川 波《40歳からの「心地よい」が見つかる 大人のシンプル片付け》	《每天都是好心情 隨手創作收納幸福生活》 ※本文簡稱為「好心情」
2	本多さおり《モノは好き、でも身軽に生きたい》	《戀物, 卻想一身輕》 ※本文簡稱為「戀物」
3	石坂京子《奇跡の3日片付け》	《令人怦然心動的3日奇蹟整理術》 ※本文簡稱為「奇蹟整理術」
4	山下ひでこ《モノが減ると心は潤う簡単「断捨離」生活》	《斷捨離的簡單生活》 ※本文簡稱為：「簡單生活」
5	近藤麻理恵《イラストでと きめく片付けの魔法》	《麻理恵的整理魔法:108項技巧全圖解》 ※本文簡稱為「整理魔法」

關於此五本書籍的內容，筆者參考中譯本的文本之章節標題、作者的前言自序，以及內頁的重點後，簡介如下：

(1) 《每天都是好心情》

本書的作者以「定期進行物品總體檢」、「重新收納」、「每日俐落打掃」、「佈置就是色彩的整理」等四步驟讓房間隨時保持整潔。作者在書中第2頁的序中寫道，她認為人生是不斷在改變的，只有好好確實生活才能享受每一天。而整理則是每天生活的基礎，可以了解自己真正需要的是什麼。

(2) 《戀物，卻想一身輕》

本書的作者為熱愛生活的整理收納顧問，認為所謂富足的生活並非擁有很多物品，而是清楚判斷出生活中「真正必要的

物品 (p. 6)」。她覺得人生就是一連串的當下，物品不該成為我們的負擔，因此作者分享自己在生活上的種種巧思，教導大家如何活得一身輕。

(3) 《令人怦然心動的3日奇蹟整理術》

作者深信成功人生的2大關鍵，就是在「理想的生活」和「家」(p. 9)。她認為住家是人生的基礎，我們的心情和思考方式都會隨著整理而逐漸成形(p. 7)。如果能將住家保持整潔舒暢，則可以成為理想的自己，進而得到理想的生活。

(4) 《斷捨離的簡單生活》

山下 (2017) 將住家各個空間分門別類，努力執行斷捨離，認為簡單的空間擁有餘裕，能帶來滋潤的生活(p. 5)，形成愉悅生活的良性循環。作者認為「斷」是斷絕不必要的東西；「捨」是捨棄多餘的雜物；「離」則是脫離對物品的執著。因此，平時必須不斷磨練對各項物事「需不需要」、「愉不愉快」、「合不合適」的感知能力(p. 4)。

(5) 《麻理惠的整理魔法:108項技巧全圖解》

作者麻理惠以獨創的「怦然心動」做為判斷物品去留的準則，並佐以插圖，分門別類、簡單易懂地解說收納整理的技巧。身為整理諮詢顧問的作者，希望自己傳授的是讓一個人成為會整理的人，而非只是單純的居家整理術 (p. 7)。

市面上相關之書籍介紹甚多斷捨離相關之收納方法，有著重整理衣物的《時尚斷捨離》、不要麻煩親人整理遺物的《死前斷捨離》、不幫孩子整理房間的《親子關係斷捨離》等書，但因研究篇幅之限制，且每本書籍的分類方式各異，為避免因性質差異過大而造成無法歸納之疑慮，本研究選擇的分析文本五本書具備了下列四種敘事元素，以便進行分析及比較。

(1) 女性觀點出發：市售書籍中，有些是以男性角度來描述己身對整理收納之看法，因研究篇幅之限制，本研究所選擇的五本書籍皆由女性的觀點來書寫，其表達方式較為一致。

(2) 自家住宅為主：收納之空間以自家所居住之住宅為主，環繞在

「衣食住」三樣，可區分為客廳、廚房、寢室、書房、衛浴等。

(3)指點整理要訣：本研究所分析之五本書籍皆介紹作者自己日常在整理收納上的訣竅，並附圖說明。

(4)注重心靈富足：書中皆認為整理不只是將東西分門別類或丟棄，而是改掉壞習慣，讓自己人生的目標變明確，因此五本書都會涉及到心靈的描寫。

本研究再由此五本書籍的內容中，篩選為「難譯詞」、「收納指示表現」、「整理整頓之擬聲擬態詞」，以及「心情感受」四大類的表現，檢視中日文兩種語文在表達形式上的差異，分析翻譯上所出現的問題及使用策略。

#### 4. 翻譯文本分析

在翻譯整理收納之類的文本時，內容多著重在介紹整理之方法、空間氛圍以及整理後之心情描述，所以在信息傳遞以及美學的操作上很重要。翻譯此類文本時應使用較輕柔、淺白且具感染力的詞彙，方可引發讀者共鳴。以下，本研究由市售的翻譯書籍中，探討相關的翻譯手法，了解專業譯者的翻譯策略，以供未來教學時能提供具體之方法。

本節文本的實例分析將就「章節標題特色」先行統整，然後將文本內容分為「難譯詞」、「收納指示表現」、「整理整頓之擬聲擬態詞」，以及「心情感受」四大類型，逐一進行中日文之分析比較。

##### 4.1 章節標題翻譯之特色統整

首先，先由章節的大標題的翻譯來看看斷捨離之書籍在翻譯中的特色。由〈表四〉可知，前三本譯本的標題在意譯的部份所佔的比例較重，而後兩本譯本則偏重在直譯。前三本意譯的原因主要是中日兩種語文表達方式不同，很多章節標題必須將說法加以更改及調整。亦即，在日文原文中，以較具感染性的文字來吸引讀者，喚起讀者想動手整理收納的意願。而後兩本直譯為多的原因則是，日文原文標題本身較簡短，修飾詞也少，結構單純，直譯便可。不過〈表四〉的最後

一本，雖採行「外語內借」的譯法，但在「空間」的後面仍再補充說明是何種空間，以更符合中文表達法。此兩本在標題的寫作風格偏向簡潔，以較淺白的方式讓人一看就懂。此外，本研究所分析的五本書籍中，小標題則多屬直譯，因篇幅限制，在本研究中省略暫不分析。

〈表四〉章節大標題的翻譯

書名	直譯 (%)	意譯 (%)	譯例 (意譯或直譯)
①戀物	33%	67%	[原文]わたしの棚卸しをしよう [譯文]清點所有物品 (意譯)
②整理 魔法	37.5%	62.5%	[原文]衣類はこうして片づける [譯文]這樣整理，打造怦然心動的衣櫃 (意譯)
③奇蹟 整理術	40%	60%	[原文]片付けで3大家事が飛躍的に進化 する [譯文]學會整理住家——讓掃除、洗滌、 做菜也變簡單！ (意譯)
④好心 情	100%	0%	[原文]暮らしを楽しむアイデア [譯文]讓生活愉快的巧思 (直譯)
⑤簡單 生活	100%	0%	[原文]「食」空間 [譯文]食的空間—廚房 (直譯)

#### 4.2 難譯詞之翻譯

整理收納的文本中，有一些常用語屬於「難譯語」，在翻譯教學時，學生必須花費非常多時間才能想出較適切的譯法，有時甚至會整個曲解原文之意。翻譯此類的詞彙，往往相當費神。主因為其意思較抽象，很難精準詮釋。因此透過市售書籍的分析，我們可以將其整理出常見譯法，並使用在教學上，以讓學生學習時有所依據。如〈表五〉所示，此類的詞彙主要有「リバウンド」、「ゆとり」、「リセット」、「うるさ

い」、「落ち着く」等。在日文皆屬常用字，但譯成中文時必須根據上下文來判斷該使用何種詞彙。因研究篇幅限制，〈表五〉只列出較具代表性的譯名。專業譯者所選擇的譯法以轉換和說明為多，可見這類的難譯詞的翻譯，在中文中必須配合前後文來變化。

〈表五〉難譯詞之翻譯

	日文原文	中文譯文	翻譯手法
1	「片づけはマインドが九割」だから。ノウハウももちろん大切ですが、ノウハウを学ぶだけだと、 <u>リバウンド</u> してしまう可能性も高いのです。(整理魔法 34)	由於「整理的九成得靠精神」，儘管正確的整理方法也很重要，但光學會方法，很可能會 <u>打回原形</u> 。(整理魔法 38)	套譯：將「リバウンド」譯成慣用語的「打回原形」，表示若無法維持整齊，則又會回到原本亂七八糟的狀態。
2	部分片付けでは「 <u>リバウンド</u> 」が待っている。(奇蹟整理術 9)	如果只整理部分區域就會立刻「 <u>恢復原本的模樣</u> 」(奇蹟整理術 9)	說明：以說明何謂「リバウンド」來翻譯。
3	収納スペースには3割の <u>ゆとり</u> を確保。(奇蹟整理術 9)	收納空間必須確保3成的 <u>多餘空間</u> 。(奇蹟整理術 9)	增譯：「ゆとり」原本是餘裕的意思，在此指空間上有餘裕，因此譯為「多餘空間」。
4	そんな <u>空間的・心理的ゆとり</u> を持つためにも、リビングには…を置いています。(戀物 29)	要讓這裡保持 <u>空間上，心理上的從容閒適</u> ，我在客廳裡放的只有…的物品。(戀物 29)	轉換：在此的「ゆとり」因和心理相結合，所以轉譯成四字詞的「從容閒適」。

5	靴下の脱ぎっぱなしもしょっちゅうですが、すぐに片付けて一日に何度も <u>リセット</u> しています。(好心情 33)	脱下來的子老是到處亂丟，如果有這樣的狀況我會立刻收拾，往往一天要 <u>反覆做好幾次</u> 。(好心情 33)	說明：「リセット」原為回到起始狀態，在此以說明的方式翻譯。
6	15分以内の「 <u>リセット</u> 」で万全。(奇蹟整理術 13)	在15分鐘以內「 <u>重新歸位</u> 」就萬無一失。(奇蹟整理術 13)	直譯：原為重新安放的意思。
7	小さな文房具はピアスや指輪などアクセサリーの外箱くらいのサイズのもので仕切ってあげると <u>落ち着きます</u> 。(整理魔法 124)	…等小型文具請放在原本裝耳環、飾品的包裝盒(或尺寸相近的小盒子)裡，即可收納得 <u>井然有序</u> 。(整理魔法 128)	套譯：「落ち着く」原意為安心、安定。在此譯為成語的「井然有序」。
8	リビングに生活感を見せてしまうモノとはリモコン…ヘアピン、アクセサリーなど目に付く <u>うるさい生活用品</u> 。(好心情 34)	會讓客廳具有生活感的東西，有搖控器…髮夾、小飾品等，顯眼的 <u>瑣碎麻煩生活用品</u> 。(好心情 34)	意譯：「うるさい」原為很煩很吵，在此意指東西太多很雜亂，因此譯成「瑣碎麻煩」。

9	ラベルはあくまで商品を守るためのパッケージ。モノが集合する冷蔵庫の中では <u>うるさい</u> だけ。 (簡單生活 49)	標籤的用途是販售商品，在冰箱裡看到了只會覺得礙眼。(簡單生活 49)	意譯：在此也是覺得標籤太多很雜亂，因此譯成「礙眼」。
---	---	------------------------------------	----------------------------

### 4.3 收納指示表現

在收納的篇章中，作者為了教導讀者收納技巧，會不斷提醒讀者該注意的事項，但這些表達方式和中文有些許不同，因此在翻譯教學時，學生也會產生很多困惑，致使教學無法順利進行。因篇幅限制，〈表六〉亦僅列出在文本中較具代表性之翻譯。由該表可知，譯者在進行此類翻譯時，以轉換的方式為主。例如「鉄則」譯為「請注意」，感覺更貼近中文的說法；「定番」譯成「基本上」，也是中文常用的詞彙，更好理解。可見專業譯者在翻譯時，用字遣詞相當靈活，不會被漢字的字型限制住，而能以「換句話說」的方式來詮釋困難的部分。

〈表六〉收納指示表現之翻譯

	日文原文	中文譯文	翻譯手法
1	<u>鉄則は立てること</u> 。とにかく細かく仕切りながら、立てて収納していくとうまくいきます。 (整理魔法 124)	<u>請注意</u> ，文具一定要直立收納。細分所有類別的文具再一直立收納。 (整理魔法 128)	轉換：將「鉄則」轉成「請注意」，感覺更有說服力。
2	<u>ポイント</u> はクリアケースやお布団、スーツケースなど体積が	一定要先放入透明收納箱棉被行李箱等體積較大的物品， <u>這一</u>	分譯：將「ポイント」拆成「一定要～這一點相當重要」來譯，

	大きいモノから入れていくこと。 (整理魔法 218)	點相當重要。 (整理魔法 222)	感覺在語氣上更有說服力。
3	そんな小物の片付け攻略のポイントは <u>ズバリ</u> 、カテゴリー分けを知ることです。 (整理魔法 120)	整理眾多小東西的攻略重點 <u>很簡單</u> ，就是要清楚分類。 (整理魔法 124)	轉換：原為單刀直入的意思，在此將其轉譯為「很簡單」。
4	選択用品の収納は洗濯機もしくは洗濯物を干す場所の近くが <u>定番</u> です。 (整理魔法 208)	<u>基本上</u> ，洗衣用品要收納在洗衣機或曬衣場附近。 (整理魔法 212)	轉換：將「定番」這名詞轉譯成「基本上」，來強調收納原則。

#### 4.4 整理整頓之擬聲擬態詞

本研究在分析整理收納相關之書籍中，發現日文原文的分析文本裡出現相當多擬聲擬態語。例如「サッと」、「パパッと」等，這些和動作有關的擬態語，或者是「ピカピカ」、「ごちゃごちゃ」等和環境相關的詞彙也很常出現。但在翻譯教學時，這些擬聲擬態語常讓學生很困惑，不知該如何用中文表達。這是因為日文除了漢字外，還有表音文字的假名，然而中文卻只能使用表意文字(漢字)，因此要翻譯擬聲語及擬態語有其困難度。由〈表七〉可知在擬聲擬態語表現方面，專業譯者使用到較多的譯法是「轉換」，多數轉為形容詞，少數以成語或省略、說明的方式取代。

〈表七〉擬聲擬態詞之翻譯

	日文原文	中文譯文	翻譯手法
1	この順番でやれば片付けが <u>さくさく</u> と進むし、	這個順序能讓整理 <u>更加順利</u> ，也能讓空間 <u>愈</u>	轉換：因中文並無適當之象聲

	見ても <u>どんどん</u> すっきりしていきます。 (整理魔法 42)	來愈清爽。 (整理魔法 46)	詞，故將擬聲擬態語轉譯成「順利」「清爽」。
2	ここはあまり時間をかけず、 <u>チャカチャカ</u> とロボットのように機敏に動いて集めるのがポイントです。 (整理魔法 50)	此時應迅速完成動作，像機器人一樣俐落地找遍家中各個角落，將所有衣服數集在一起。 (整理魔法 54)	省略：因為已有俐落（機敏に）一字用來形容機器人，所以前面的擬聲擬態語便省略不譯。
3	かごに入る分だけ持つ。 <u>ぎゅうぎゅう</u> に詰めるのではなく、モノが心地よさそうに並ぶ分だけ。 (簡單生活 69)	數量不能超出籃子的空間，排列整齊，不要塞得 <u>滿滿的</u> 。 (簡單生活 69)	轉換：在此轉譯成較接近的疊字形容詞「滿滿的」，代表非常足夠。
4	<u>ごちゃごちゃ</u> とあふれていた生活感が、色の片付けをするだけで暮らしに溶け込み、驚くほどすっきりします。 (好心情 59)	<u>亂七八糟</u> 的會太有生活感，只要統一顏色，就會完全融入生活中，給人超乎想像的清爽感。 (好心情 59)	套譯：譯成較相近的成語「亂七八糟」。
5	仕事に家事、育児、雑事等々…忙しいほどに気持ちは <u>きゅうきゅう</u> とします。(戀物 38)	工作加上家事、帶孩子、雜務…，生活愈忙情緒愈是 <u>糾結</u> 。 (戀物 38)	轉換：將「きゅうきゅうと」譯為形容詞的「糾結」。
6	<u>カチカチ</u> と四角い箱で仕切っていくほうが喜びます。 (整理魔法 124)	建議使用一個材質 <u>硬挺</u> 的方盒，與其他物品區分開來，才能創造出令它們開心的環境。 (整理魔法 128)	說明：此處的「 <u>カチカチ</u> 」以說明的方式取代。

#### 4.5 心情感受

在心情感受這一項，如〈表八〉所示，專業譯者所採行的方法相當多元，有轉換、省略、說明、分譯等等。

〈表八〉心情感受之翻譯

	日文原文	中文譯文	翻譯手法
1	少しの間、見ないだけでも取り出した時に新鮮に感じられるという <u>うれしいおまけ</u> つきです。 (好心情 29)	縱然只有一小段時間沒看到那些器皿， <u>拿出來時卻有種新鮮感</u> ，這也是附加的 <u>好處</u> 。 (好心情 29)	轉換：將「うれしい」轉譯成名詞「好處」。
2	同じモノを並べることでフラットな面ができるので、 <u>無駄のないすっきりした印象</u> になりました。 (好心情 60)	同款式的收納盒並排後變成平坦的一面， <u>給人俐落清爽的感覺</u> 。 (好心情 60)	省略：因為後面已有「すっきり」修飾「印象」，所以便將「無駄のない」的翻譯直接省略。
3	かごに入る分だけ持つ。ぎゅうぎゅうに詰めるのではなく、 <u>モノが心地よさそうに並ぶ分だけ</u> 。 (簡單生活 69)	數量不能超出籃子的空間， <u>排列整齊</u> ，不要塞得滿滿的。 (簡單生活 69)	語序轉換：把原本的句型重新排序，且將「心地よさそうに」改成簡潔的「排列整齊」。
4	…靴下を履くと、自分で <u>その日一日を「その程度」にしてしまうこと</u> になります。(整理魔法 64)	破洞，嚴重起毛球這類穿著時還要考慮再三的襪子， <u>只會讓自己美好的一天失去光彩</u> 。(整理魔法 68)	說明：翻譯成較有感染力的說法。

5	カチカチと四角い箱で仕切っていく <u>ほう</u> が <u>喜</u> びます。 (整理魔法 124)	<u>建議使用</u> 一個材質硬挺的方盒，與其他物品區分開來， <u>才能創造出令它們開心的環境</u> 。(整理魔法 128)	分譯:將「喜びます」分譯成「建議使用…才能創造出令它們開心的環境」。
---	--	---	------------------------------------

由〈表八〉來看，日文的心情感受牽涉到主客觀的情感表現，其表達方式較為複雜。而另一方面，中文在情感表現上則較為客觀，變化也較少，不如日文般豐富。因此，譯者在翻譯日文心情感受相關的句子時，會依前後文採行不同的策略，以符合中文的表達習慣。如〈表八〉例5的部分，會刻意加上額外的說明「…才能創造出令它們開心的環境」，以區分「開心」的主語是物而非人。亦即，中文的情感詞彙不若日文在詞彙的選擇上有所區別，因此當想表達物的感受時（如表八中的例句3、5），必須以說明或轉換的方式來翻譯較為妥當。

## 5. 研究結果與考察

經以上各章節之調查與考察分析後，本研究將專業譯者在翻譯整理收納書籍的技巧及策略整理如下：

- (1)「難譯詞」：專業譯者在這方面所選擇的譯法，主要以轉換和說明為多。整理收納難譯詞的翻譯，在中文中必須配合前後文的句型來做變化，很難有統一的講法。但藉由譯者的翻譯，可供日後教學時，做為譯例的參考。
- (2)「收納指示表現」：專業譯者在進行此類翻譯時，以轉換的方式為主，且其用字遣詞相當靈活。漢字的字型往往會成為日譯中時的障礙，因此必須學習以「換句話說」的方式來詮釋這些概念較為抽象且多義的詞彙。
- (3)「整理整頓之擬聲擬態詞」：專業譯者在這方面使用到較多的譯法是「轉換」，因中文的象聲詞太少，因此多數譯者選擇將擬聲擬態詞轉為形容詞，少數以成語或省略、說明的方式取代。原本音聲效果雖然消失了，但保留了該有的基本意思。

(4)「心情感受」:從文本的譯例中可發現,日文的心情感受牽涉到主客觀的情感表現,因人稱詞的不同,所使用的詞彙也會跟著轉變。而相對來說,中文情感表現的敘述方式較為客觀化,可用詞彙選擇較少,因此譯者在翻譯日文心情感受相關的句子時,通常會採取增添說明的策略,以完整表達文意。

## 6. 今後課題

本研究藉由市售譯本之實例分析「難譯語」、「收納指示表現」、「整理整頓之擬聲擬態詞」,以及「心情感受」四大類型,試圖透過篇章分析,取得較合宜的翻譯策略及中文譯法。然而本研究因研究篇幅限制,現僅就五本翻譯書籍之內容加以探討,無法做進一步量化的分析比較。此外,也未能針對整理收納的物品、材質等做更進一步的探究。期望未來能再加強其他部分的分析,使此類型文本的翻譯策略更加明確,以應用在日後的翻譯教學上。

## 參考文獻

### 中文文獻

- 劉宓慶(1993)《當代翻譯理論》書林
- 劉宓慶(1995)《翻譯美學導論》書林
- 李光連(1996)《散文技巧》洪葉文化
- 洪富連(1998)《當代主題散文研究》高雄復文書局。
- 杜淑貞(2000)《現代實用修辭學》高雄復文圖書出版社
- 何傳(2000)《王希杰修辭學論集》廣東高等教育出版社
- 陳景鴻(2007)《中英論說文寫作修辭策略對比分析》國立高雄師範大學英語學系研究所碩士論文
- 邢福義(2007)《現代漢語語法修辭專題》高等教育出版社
- 伍鋒(2008)《應用文體翻譯:理論與實踐》浙江大學出版社
- 謝天振(2009)《當代國外翻譯理論導讀》南開大學出版社
- 賴慈芸(2009)《譯者的養成:翻譯教學、評量與批評》鼎文書局
- 劉華珍(2009)《日漢語擬聲詞擬態詞對比研究》高雄師範大學國文教

#### 學研究所碩士論文

- 戎林海 (2010) 《新編實用翻譯教程》上海外語教育出版社
- 廖柏森 (2011) 《翻譯教學實務指引》眾文圖書公司
- Leonard Koren 著 蔡美淑譯 (2011) 《Wabi-Sabi：給設計者、生活家的日式美學基礎》行人出版社
- 山下英子著 羊恩嫩譯 (2011) 《斷捨離》平安文化
- 耕野俊明著 蔡青雯譯 (2012) 《看不見的設計：禪思、觀心、留白、共生，與當代庭園設計大師的 65 則對話》臉譜出版社
- 黃淑貞 (2013) 《如何捷進寫作詞彙》商周出版
- 蘇靜 (2013) 《知日：斷捨離》中信出版社
- 黃淑貞 (2014) 《如何捷進寫作詞彙-景物篇》商周出版
- 周芬伶 (2014) 《散文課》九歌出版
- 地曳 iku 子著 王曉維譯 (2015) 《時尚斷捨離》蘋果屋
- Anthony Pym 著 賴慈芸譯 (2016) 《探索翻譯理論》書林出版
- 陳建民 (2016) 《翻譯學：理論、策略、方法》五南出版社
- 山下英子 (2016) 《親子關係斷捨離》大是文化
- 山下英子 (2016) 《丟吧！成為更好的自己》時報出版
- 廖柏森 (2017) 《英中筆譯 2：各類文體翻譯實務》眾文圖書公司
- 瑪格麗塔·曼努森著 陳錦慧譯 (2017) 《死前斷捨離》愛米粒
- 增田明子著 徐瑞羚譯 (2017) 《無印良品 MUJI 式，到全世界都受歡迎的獨特經營術》財經傳訊
- 張菟真 (2018) 《台灣·日本「美學意識」之研究—以「生活美學」為例—》高雄第一科技大學應用日語學系研究所碩士論文
- PATRICIA J. GRAHAM 著 張寅譯 (2018) 《日本的設計：藝術、美學與文化》遠足文化

#### 日文文獻

- 吳笛 (2001) 〈応用日本語学科における翻訳指導の課題と実践—日文中訳について—〉《南台応用日語学報》創刊号
- 安西徹雄ら編 (2005) 《翻訳を学ぶ人のために》世界思想社

- 有賀千佳子(2007)〈オノマトペを通して、語彙の学習教育について考える〉、《日本語学》、Vol 26
- 秋元美晴(2007)〈日本語におけるオノマトペの位置づけ〉、《日本語学》、Vol 26
- やましたひでこ(2009)《新・片づけ術「断捨離」》マガジンハウス  
主婦の友社編(2009)《インテリアの基本レッスン》主婦の友社  
主婦の友社編(2012)《はじめてのインテリア 基本レッスン》主婦の友社
- 本多さおり(2014)《もっと知りたい無印良品の収納》KADOKAWA  
梶ヶ谷陽子(2016)《無印良品の整理収納》マイナビ出版  
龐焱(2016)〈翻訳から見る日中両国語の擬音語と擬態語について〉  
《神戸女学院大学論集》 63巻1号 pp. 65-84
- やましたひでこ(2018)《人生を変える断捨離》ダイヤモンド社

#### 分析文本

##### 日文原文

- 石坂京子(2014)《奇跡の3日片付け》講談社
- 本多さおり(2015)《モノは好き、でも身軽に生きたい》大和書房
- 近藤麻理恵(2015)《イラストでときめく片付けの魔法》サンマーク出版
- 堀川 波(2016)《40歳からの「心地よい」が見つかる大人のシンプル片付け》PHP研究所
- 山下ひでこ(2016)《モノが減ると心は潤う簡単「断捨離」生活》大和書房

##### 中文譯本

- 石坂京子(2015)《令人怦然心動的3日奇蹟整理術》蘋果屋
- 近藤麻理恵(2015)《麻理恵的整理魔法:108項技巧全圖解》方智
- 山下英子(2017)《斷捨離的簡單生活》遠足文化
- 本多沙織(2018)《戀物，卻想一身輕》合作社出版
- 堀川 波(2018)《每天都是好心情 隨手創作收納幸福生活》遠流

※2018年4月30日受領 2018年6月30日審査通過



## 『日本論叢 37 号』編集後記

今号の内容は以下のようになっております。

論文篇では、正規の論文審査手続きによる投稿論文、研究報告で今回は審査の結果、6本中4本が掲載(掲載率66.7%)となりました。寄稿の形でのご投稿も歓迎いたします。皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。

2017年8月から曾秋桂教授が主任となり、2018年8月から第2期に入ります。本学科初の女性教授による主任として学内での職務を遂行するとともに、同時に台湾日本語文学会理事、台湾日語教育学会理事長としての学会活動を実施し、村上春樹研究センター主任としての活動も同時に続けています。1期目に続き、2期目も順調に系務を果たすことができますよう、引き続き学内外の諸氏のご協力、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

本学科では、2018年5月に守謙国際会議センターを使って、2018年度の村上春樹国際シンポジウムを開催し、グローバルな視点で村上春樹研究の普及と発展を目指す、活動を続けております。現在、台湾は深刻な少子化が進んでおり、大学への入学者急減への対策が急務になっていますが、その中心になるのが、より社会的意義のある人文社会系研究と教育の推進です。近代の世界ではひとつの基準で文明がランキングされてきましたが、21世紀の多様化多重化する世界では、それぞれの独自文化の中にグローバルな視点を活かして、新しい価値を創造していく試みが重要と思われれます。日本の言語社会文化を台湾で消化し、海外に発信していく、そうした流れに寄与できれば、きっと次の時代の台湾の文化を革新し、新しい日本語教育世代を育てていくこともできるでしょう。皆様とともに、107学年度もさらなる教育と研究の発展に向かって進んでまいりたいと希望いたします。

主編 落合由治  
2018年6月30日

# 『淡江日本論叢』徵稿章則

第 98 學期第 1 次系務會議修訂通過(98 年 9 月 4 日)

第 96 學期第 2 次系務會議通過(96 年 12 月 17 日)

- 一、一年出刊兩期（第一期 6 月 30 日出刊、第二期 12 月 31 日出刊）。
- 二、論文內容：以日本語學、日本文學、日語教育學、日本文化等與日本相關之未發表①學術論文及②教學・研究報告為限。恕不接受碩、博士論文及論文譯稿。
- 三、投稿資格：歡迎校內外研究者踴躍投稿。
- 四、論文格式：
  - 1、Word98 以上，以橫寫為限。
  - 2、使用文字：以中、日文為限。
  - 3、紙張：A4
  - 4、字體：MS Mincho，明朝粗體 14（論文名），明朝 12（本文），明朝 10（註解）。
  - 5、邊界：上 5.35 公分，下 4.35 公分，左 3.5 公分，右 3.5 公分。
  - 6、字數：30 字（橫）×30 行（縱）
  - 7、頁數：含中、英、日文摘要暨全文(包括圖、表及參考文獻、資料等)至多 25 頁。
  - 8、摘要：500 字以內之中、英、日文摘要（各摘要含論文題目、作者姓名、所屬單位。字體大小如上。中文採標楷體、英文採 Times New Roman 體、日文採明朝體）及 5 個以內之關鍵詞。
  - 9、論文標題置中，題目上，姓名中，所屬單位下。專任者不寫「專任」，兼任者要寫「兼任」。研究生要寫「碩士生」或「博士生」。
  - 10、正文章節使用阿拉伯數字 1.2.3.（下位分類為 2.1 2.2 2.3），請勿以“0”開始。
  - 11、註解採隨頁註，以 1.2.3.方式置於該頁下方。
  - 12、參考文獻：如係以日文書寫，參考文獻之排列为日（五十音順序）中（依漢字讀音順序）英（abc 順序）。如以中文書寫，參考文獻之排列为中、日、英其順序同前。專書按著者或編者名、出版年代、書名、版、出版地、出版社、頁數排列。論文按著者、出版年代、論文名、刊載書名、卷號、出版地、出版社、頁數排列。論文集亦視同專書。
  - 13、著作權同意書
- 六、審稿辦法：
  - 1、所有稿件，均須由本系及校外之專家組成審查委員會審查通過後方能刊登。
  - 2、審查意見分為三種：  
「a.可刊登」「b.修改後刊登」「c.不宜刊登」
  - 3、審稿費每人次 1000 元（共計 2000 元）由投稿者自付。第三人審稿時，由投稿者與審查委員會各負擔一半。
- 七、投稿辦法：請將符合論文格式之稿件三份、光碟片一份及個人資料表、著作授權同意書〈個人資料表以及同意書表格，自日文系網頁 <http://jpweb.jp.tku.edu.tw> 上列印〉，當年度第一期於 4 月 30 日前，第二期於 10 月 31 日前，以掛號郵寄至「251 台北縣淡水鎮英專路 151 號 淡江大學淡江日本論叢編輯委員會」。  
審稿費用 2000 元請以郵局現金袋掛號寄送。
- 八、刊登於本論叢之論文版權均屬本系、本校所有，著作權屬於作者。
- 九、審稿後之修改論文，本編輯委員會有權保留刊登權。投稿論文如因審查或作業流程延宕，不及於當期刊登，則順延至次期刊登。

# 個人資料表

投稿人姓名：

論文題目：

論文內容：日本語學 日本文學 日語教育學 日本文化

其他——日本相關（請勾選適當選項）

論文屬性：學術論文 教學・研究報告（請勾選適當選項）

投稿規定遵守誓約：本人確實遵守以下之規定事項

（請務必勾選下列選項，未勾選者恕不受理。）

本論文並非碩士論文或博士論文之一部份或是其譯稿

本論文未有重覆投稿之情形（並未在本次投稿之前或同時於其它論文雜誌、學報進行投稿，且於本學科審查結果公布之前，不會投稿於其它論文雜誌、學報。）

此論文已於\_\_\_\_\_進行口頭發表

已於論文最後註明此情形 在本學科確定刊登時務必會註明此情形

服務機構：

職稱：

聯絡電話：

傳真：

電子信箱：

通訊地址：

請確認投稿資格與誓約、再次檢查所附資料是否齊全、

符合論文格式之稿件三份

磁片一份

個人資料表一張

著作授權同意書一張

審稿費 2000 元台幣（或 8000 元日幣）

※查詢《日本論叢》徵稿章程。

## 著作授權同意書

論文名稱：\_\_\_\_\_ (以下稱「本論文」)

一、若本論文經 淡江日本論叢 接受刊登，作者同意非專屬授權予 淡江大學日文系 做下述利用：

1. 以紙本或是數位方式出版；
2. 進行數位化典藏、重製、透過網路公開傳輸、授權用戶下載、列印、瀏覽等資料庫銷售或提供服務之行為；
3. 再授權國家圖書館或其他資料庫業者將本論文納入資料庫中提供服務；
4. 為符合各資料庫之系統需求，並得進行格式之變更。

二、作者同意 淡江大學日文系 得依其決定，以有償或無償之方式再授權予國家圖書館或其他資料庫業者。除無償合作之狀況外，淡江大學日文系 應以本同意書所載任一連絡方式通知作者其再授權之狀況。

三、作者保證本論文為其所自行創作，有權為本同意書之各項授權。且授權著作未侵害任何第三人之智慧財產權。本同意書為非專屬授權，作者簽約對授權著作仍擁有著作權。

此致 淡江大學日文系

立同意書人(作者)名稱：

所屬機構：

職 稱：

身份證字號：

電話號碼：

電子郵件信箱：

戶籍地址：

中 華 民 國                      年                      月                      日

編集委員會

發行人 曾秋桂

主 編 落合由治

校外編集委員 林慧君 王世和 楊錦昌

校内編集委員 富田哲

執行編輯 伍耿逸 葉凌

論文と教育研究報告の投稿に関する外部審査の結果、全投稿 6 本  
中、5 本が掲載された。今号の掲載率は 66.7%である。

## 淡江日本論叢第 37 輯

---

出版者：淡江大學日本語文學系

地 址：25137 台北縣淡水鎮英專路 151 號

淡江大學日本語文學系内

『淡江日本論叢』編集委員會

發行人：曾秋桂

傳 真：(+886) 02-2620-9915

印刷所：大新書局

地 址：台北市瑞安街 256 巷 16 號

電 話：02-2703-9639

網 站：<http://jpweb.jp.tku.edu.tw/>

---

出版日：2018 年 6 月 30 日

---